

邑久十年のあゆみ

岡山県邑久郡
邑久町発行



1962

邑久町10年の歩み



邑久町制施行10周年記念



町章

町名かしら文字の“邑”を図案化して、円満融和と雄飛発展をかたどっている。

古武弥四郎

ここゆ見おろす岡山のみち

通学の昔なつかしかへり来て

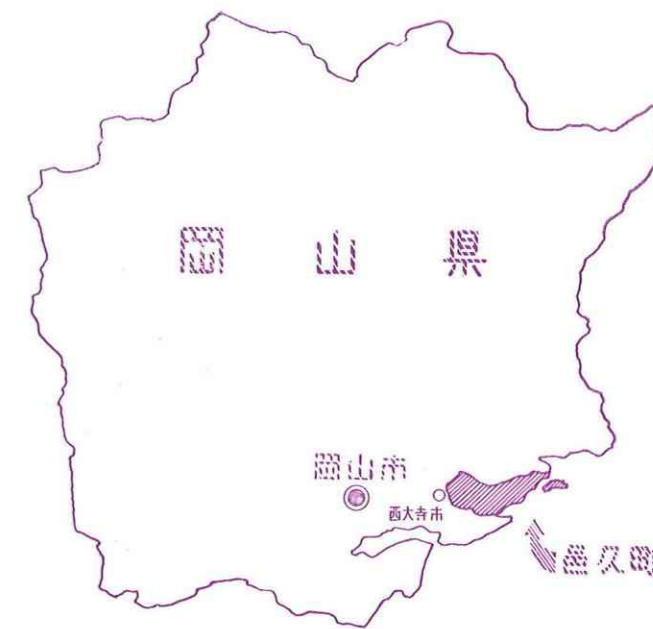
邑久町の由来

西は吉井川の清流に沿い、南から東北にかけて小高い山々が連なり、それにかこまれて美しい格子の目のようにひろがっているのが、わが邑久町のシンボルともいえる千町平野である。

聖書の創世記の書き出しに「はじめに神は天と地とを創造された。地は形なくむなしく、やみが淵のおもてにあり、神の霊が水のおもてをおおっていた。」と書かれてあり、また後世の考古史家の伝えによれば、「邑久千町四圍の山麓に貝塚が連互せるは、千町の太古が渺茫たる海原なりし傍証なり」ともいわれている。

この邑久千町の海面が長い年月の間に干潟になって、われわれの祖先が農耕地として漸次干拓するようになってから数千年の歴史を経ていることであろうが、稔り豊かな穀倉地帯として遠くわれわれの祖先から未来永劫にわれわれの子孫まで、生々発展してはぐくんでくれる聖なる母のふところであり、また一面素朴ではあるが格調高い邑久文化を育てた源泉でもある。

小高い山から一望に見下す千町平野の姿は、時代とともに除々に変わりつつはあるが、しかも何時ながめても帯状に水をたたえて静かに流れる千町川の風物詩をまじえて、こよなく平和的で美しいものに見える。



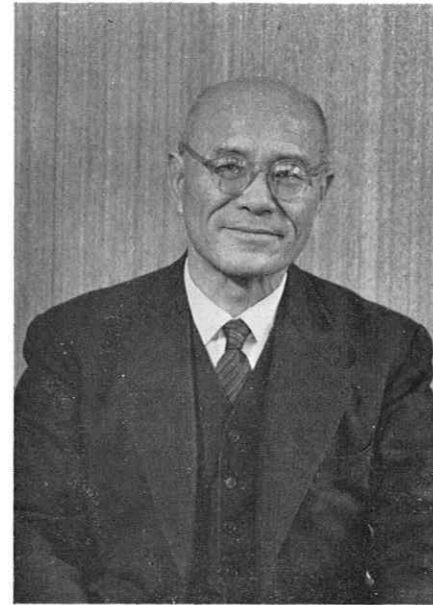


竹久夢二 “ふるさと”

①はじめに

目次

- 1. はじめに
 - 2. あらまし
 - 3. 行政
 - 4. 財政
 - 5. 産業経済
 - 6. 建設
 - 7. 教育文化
 - 8. 社会福祉
 - 9. 保健衛生
 - 10. 町民生活
 - 11. 交通通信
 - 12. 消防
 - 13. 観光
- 付録



発刊のことば

昭和37年4月

邑久町長 嘉敷郁街

町村合併促進法が施行される前全国にさきがけて昭和27年4月合併により誕生した私たちの町は、ここに早くも10年の歩みをつづけてまいりました。

この間、町民一致のたゆまない協力により町勢いよいよ進展しつつあることはまことに喜びにたえません。

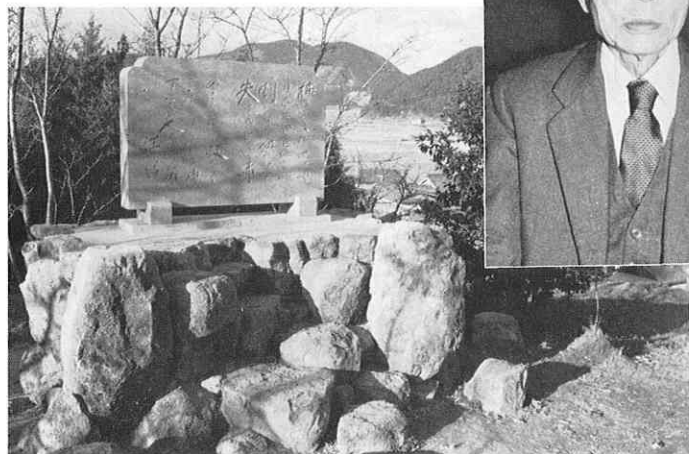
町制施行以来増強した財政力をもって教育、産業、民生の各分野に亘り鋭意諸施設の充実整備を図ってきましたが、特に町の3大事業としてその実現にけんめいな努力を払った国鉄赤穂線の敷設、錦海塩業製塩工場の誘致及び上水道の建設等それぞれ何れもその目的を達した今日、さらにこれを基盤として、あるいは県南広域都市圏の一環として従来の農漁村的な町の形態からぬけ出し大きく次の発展が期待されている現状であります。

ここに町制施行10周年の記念すべき日を迎えるにあたり、私たちがたどってきた10年の足跡を収録した本書により、もろもろの事象を顧みて謙虚な反省と検討を加え、さらに明日への飛躍発展の資とすることができますならばまことに幸とするところであります。

明治14年4月15日、本庄佐井田の生まれ。本名を由太郎といい、竹久夢二とは竹馬にのり鳥居に石をなげて遊んだ幼な友達だった。

閑谷齋で西薇山先生のきびしい薫陶をうけた。明治37年、哲学館（今の東洋大学）を卒業、翌年はやくも歌集「夏びさし」、さらにつづく年詩集「小皴」をだして、その奔放多彩な詩才をうたわれた。大正7年雑誌「新進詩人」を創刊、ながくこれをつづけて詩を発表し、また後進の育成指導につくした。詩歌集、詩論の著作は数十冊におよんでいる。昭和24年「日本詩人クラブ」を創立し、その常任理事として現在もかくしゃくとして活躍している。

昭和35年5月ふるさと佐井田に詩碑がたてられた。碑文にいわく――



明治13年11月9日、下笠加の生まれ。本名専次郎。明治36年岡山師範卒業ののち、教職を歴任、生涯を書道教育にささげつくした。文部省、高等師範などから招かれたが、母校岡山師範と郷土への教育愛をつらぬいて、栄達をかえりみななかった。

ひろく和漢の金石法帖を研究して板についた書法は、至高の境地に達したといつてよい。門下からは全国にも例のない多くの文検合格者を出し、井上桂園はじめすぐれた人びとを日本書道界におくった。また県下金石文の染筆も数百点にのぼっている。漢詩も深奥をきわめ、作詩3,000篇におよんでいる。

昭和27年邑久町文化功労賞、29年岡山県文化賞、36年山陽新聞社賞を受賞。同年11月19日、ふるさとに病没。



郷土の生んだ芸術家



待てど暮らせど来ぬ人を
宵待草のやるせなさ
今宵は月も出ぬそうな

哀傷やるかたもないこの歌と、夢みるようにうんだ眼の美人画とで、大正、昭和へかけて若人の心をとらえた夢二は、明治17年9月16日本庄佐井田の生まれ。本名を茂二郎といった。明治34年上京、早稲田実業に学んだが、途中から画家を志して、少年少女雑誌にさし絵をかきはじめ、甘美な抒情のあふれる画風で一世をふうびした。

本格的な絵をかきたい意図で、昭和5年ごろ渡米、ヨーロッパを廻つたが病をえて8年帰国、9年9月1日富士見高原療養所で病没した。旅空でいつも郷愁の詩をよみ、ふるさとを偲ぶような瞳の美人をえがいた人らしい、さびしい死であった。

詩畫集の著50余冊。上州榛名湖畔に「さだめなく鳥やゆくらん青山の青のさびしさがぎりなければ」ときざまれた歌碑があるが、本町でも佐井田の明見宮に歌碑をたてる計画がすすめられている。

ちなみに、東京雑司ヶ谷の夢二埋葬の地は東京都史跡に指定されている。

古 武 弥 四 郎

医 学 博 士



明治12年7月2日、本庄村のうまれ。明治35年大阪医学校を卒業後、生化学の泰斗・京大総長荒木寅三郎博士に師事した。阪大教授、微生物研究所長、医学部長を経て、昭和15年停年で退職。外遊3回、学士院賞をさすけられた。その間日本学士院会員ならびにドイツ学士院会員におされる。36年3月和歌山医大学長を退官、現在阪大名誉教授。半生をアミノ酸の研究にかたむけ、その業績によって36年11月3日、文化功労者の栄誉をうける。30年11月本町名誉町民。



古武博士墨蹟

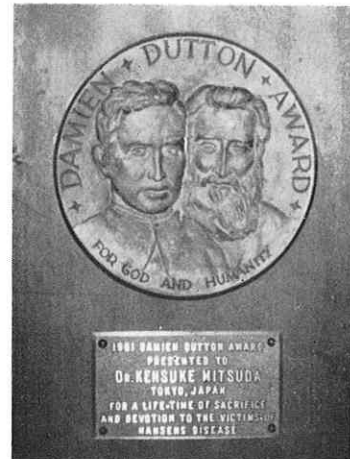
光 田 健 輔

前長島愛生園長



明治9年1月12日、山口県防府市のうまれ。明治31年東京帝大病理撰科をおえ、東京市養育院をふりだしに昭和32年退職までの人生を、救ライー途にささげた。昭和6年長島愛生園長、24年朝日新聞社会奉仕賞、26年7月文化功労者、同11月文化勲章をうける。33年7月本町名誉町民。36年1月社会福祉における国際的な最高賞であるダミエン・ダットン章をうける。

なお、出生地防府市、現住地岡山市からも名誉市民の称号をうけている。



ダミエン・ダットン章

特別職議員の顔ぶれ

邑久町誕生早々の町政をになって今日の発展のいしずえをさすいた人びと



初代町長 奥田真須二
初代議長 岩井寛
二代議長 田中義雄

旧村の思い出

邑久村役場

旧村の思い出

今城村役場



村長 奥田真須二 議長 清水哲太郎

面積 6.65km²
戸数 514戸
人口 2,554人 {男 1,176人
女 1,378人
昭和26年度予算額 6,701千円



村長 加藤博



議長 谷 祐 遵

面積 4.61km²
戸数 471戸
人口 2,247人 {男 1,074人
女 1,173人
昭和26年度予算額 6,254千円



福田村役場

豊原村役場

面積 5.07km²
戸数 384戸
人口 1,970人 {男 977人
女 993人
昭和26年度予算額 6,117千円



村長 川崎 茂



議長 山本隆正



村長 小林徳太



議長 中山 剛

面積 7.74km²
戸数 409戸
人口 2,063人 {男 962人
女 1,101人
昭和26年度予算額 7,090千円



旧村の思い出

本庄村役場

旧村の思い出

玉津村役場



村長 木村佐代治



議長 山本寛二郎

面積 8.16km²
戸数 445戸
人口 2,242人 {男 1,082人
女 1,160人
昭和26年度予算額 5,935千円



村長 水野梶郎



議長 川野貞夫

面積 11.37km²
戸数 480戸
人口 2,268人 {男 1,030人
女 1,238人
昭和28年度予算額 8,201千円



笠加村役場

裳掛村役場

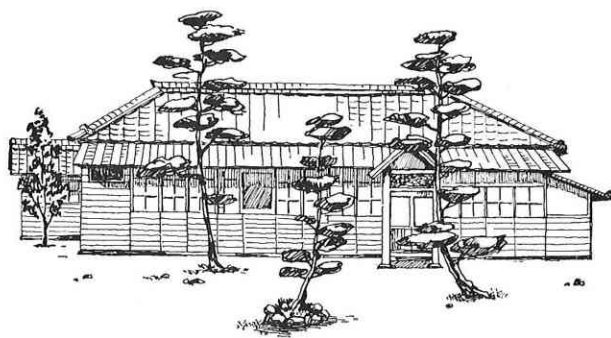
面積 3.66km²
戸数 255戸
人口 1,270人 {男 621人
女 649人
昭和26年度予算額 4,400千円



村長 北山芳太郎



議長 水田岩太



村長 田中勝正



議長 田中保吾



面積 23.38km²
戸数 897戸
人口 7,233人 {男 3,854人
女 3,349人
昭和32年度予算額 16,619千円

② あらまし



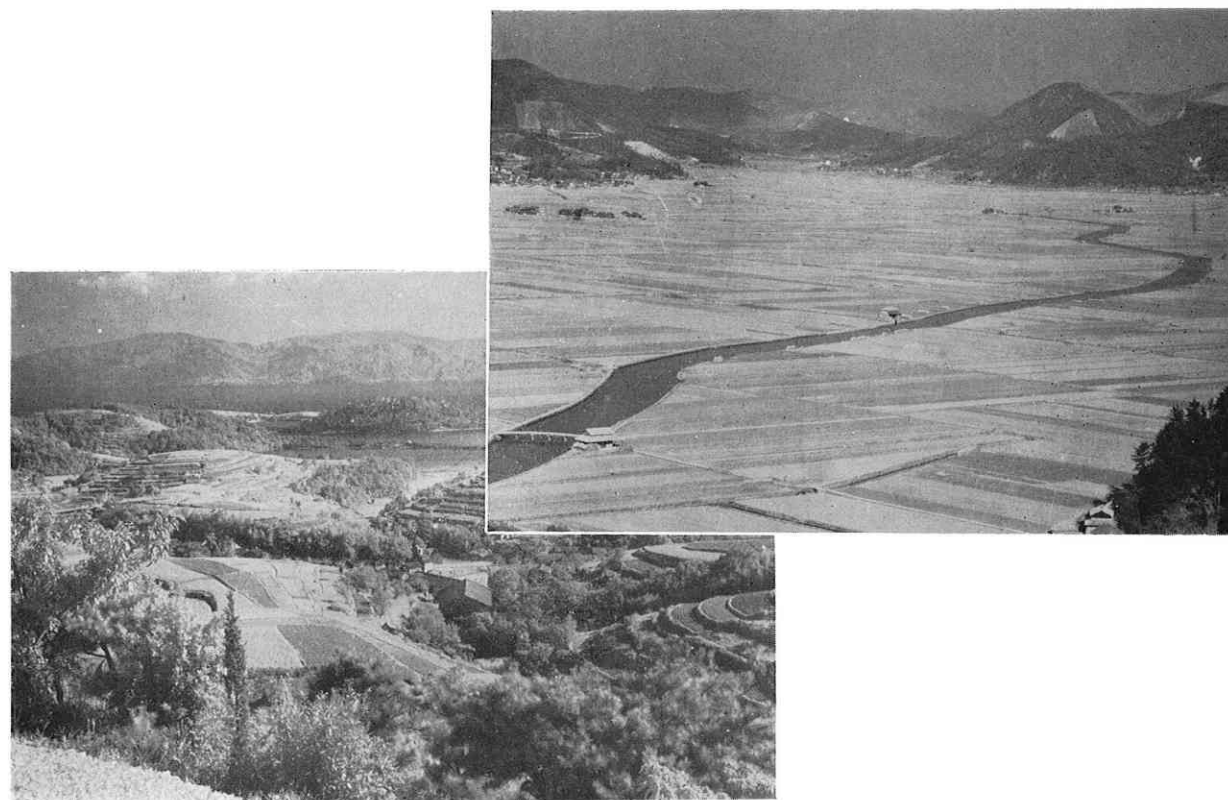
左から 助 役 大 河 原 稔
収入役 入 江 良 知
議 長 家 野 富 太
副議長 松 本 春 繁



邑久町役場庁舎

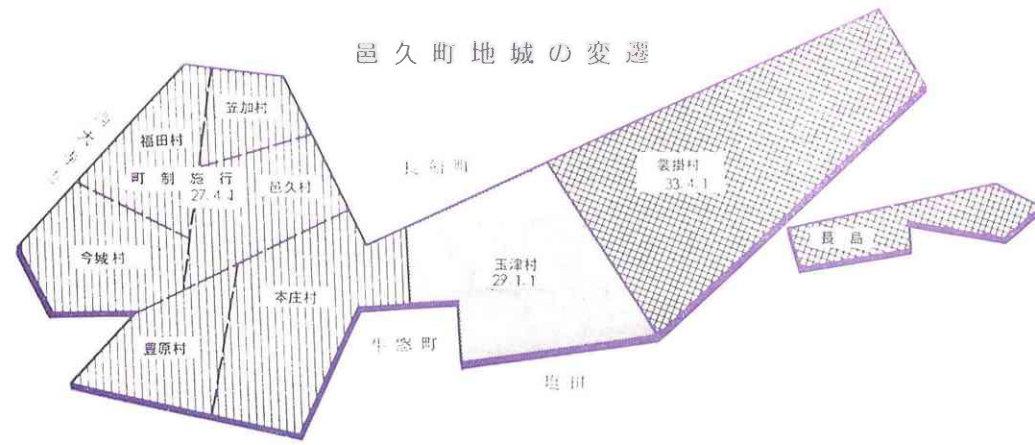
沿 革

昭和27年4月1日、邑久村・福田村・今城村・豊原村・本庄村・笠加村の6カ村が合併、邑久町として町制を施行した。
28年2月1日、長沼の一部が分離して、西大寺市に編入したが、29年1月1日には玉津村、33年4月1日には裳掛村がそれぞれ合併して、ここに面積67.23km²、人口21,000の大邑久町の新生をみた。これによって行財政力は飛躍的に拡充され新町建設の構想は着々と軌道にのるにいたったのである。



地 勢

本町は、岡山県の東南部、岡山市から19kmのところにある。
邑久郡を横断したかたちで東西に長く、西は県下3大河川の一つ吉井川をへだてて西大寺市・上道町に接し、東へ長くのびたあたりは瀬戸内海にのぞんでいて播磨灘の潮が岸をあらっている。北は長船町と備前町、そして南は小連山のいただきが西大寺市・牛窓町にそれぞれ接している。
地勢はおおむね平らかで、中央部から西に県下でもまれな穀倉地帯として美田がつらなり、東部は標高200m前後の大平山・妙見山・玉葛山・竜王山・四辻山等の山々が自然の境界をなして連なっている。それから南へしだいと小さな丘陵がむららっていて、ついに瀬戸内海へのびているが、そのあたりは傾斜畑が多く、水田がとぼしい。



地質の構成

地質別面積

地質別面積	黒流雲母岩	砂礫及び粘土(現世層)	変粘板岩	黒雲母岩	砂礫及び粘土(更新世)	石英斑岩	総面積
面積 <i>ha</i>	28.73	28.14	8.78	1.06	0.34	0.18	67.23
地質別比率%	42.73	41.85	13.06	1.59	0.50	0.27	100.00

人口

昭和27年4月に合併して町制が施行された当時の世帯数は、2,360、人口11,820人であったが、昭和28年2月長沼の一部がわかれて西大寺市に編入、昭和29年1月玉津村、そして昭和33年4月裳掛村の合併により、人口は一躍21,000人、約4,000世帯となり、合併後10年にして人口、世帯数ともに飛躍的の増加をしめした。

静態人口

年次	総人口	同左指数	男	女	総世帯数	面積 <i>ha</i>	1 <i>ha</i> 当り人口	備考
昭27	11,820	100%	5,750	6,070	2,330	33.31	353	町制施行 長沼の一部 西大寺市へ 玉津村合併
28	13,864	117	6,727	7,137	2,824	33.31	416	
29	13,570	114	6,561	7,009	2,849	44.67	303	
30	13,890	117	6,775	7,115	2,827	44.67	310	
31	13,673	115	6,656	7,017	2,819	44.67	306	裳掛村合併
32	13,613	115	6,611	7,002	2,838	44.67	304	
33	20,551	173	10,116	10,435	3,721	67.23	305	
34	20,545	173	10,569	9,976	3,756	67.23	305	
35	20,194	170	10,212	9,982	3,708	67.23	300	
36	20,144	170	10,116	10,028	3,732	67.23	299	

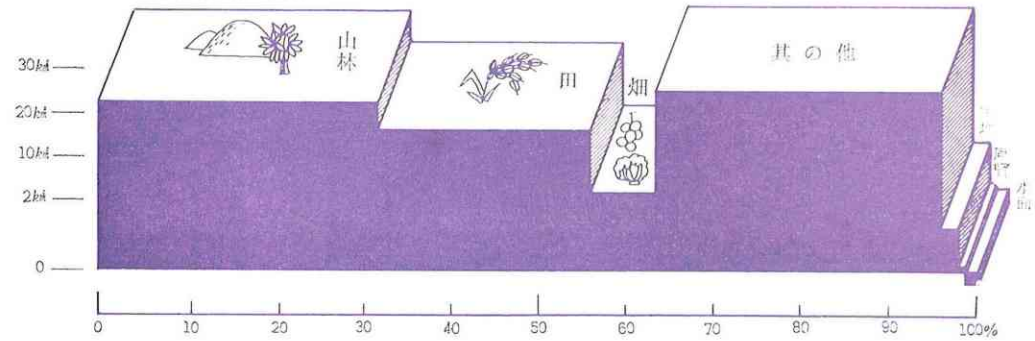
(注) 当該年度町域による住民登録年次別人口、世帯数

動態人口

年次	出生			死亡			婚姻	死産	離婚	自然増 A	転入	転出	社会増 B	A+B
	男	女	計	男	女	計								
昭27	158	167	325	101	119	220	185	49	9	105	354	422	△ 68	△ 37
28	174	141	315	139	93	232	137	40	11	83	386	515	△ 129	△ 46
29	189	82	271	98	82	180	141	34	9	91	573	703	△ 130	△ 39
30	153	152	305	113	76	189	194	33	10	116	517	657	△ 140	△ 24
31	185	122	307	135	90	225	157	27	3	82	292	451	△ 159	△ 77
32	134	106	240	126	104	230	157	21	8	10	562	650	△ 88	△ 78
33	148	132	280	93	92	185	163	22	12	95	884	1,082	△ 198	△ 103
34	177	118	295	134	89	223	172	24	5	72	843	973	△ 130	△ 58
35	121	93	214	126	70	196	156	20	10	18	642	989	△ 347	△ 329
36	103	91	194	118	69	187	139	20	11	7	441	537	△ 96	△ 89

(注) 当該年町域による、住民登録出生、死亡数および転入転出、その他は人口動態統計

地目別面積



地目別面積

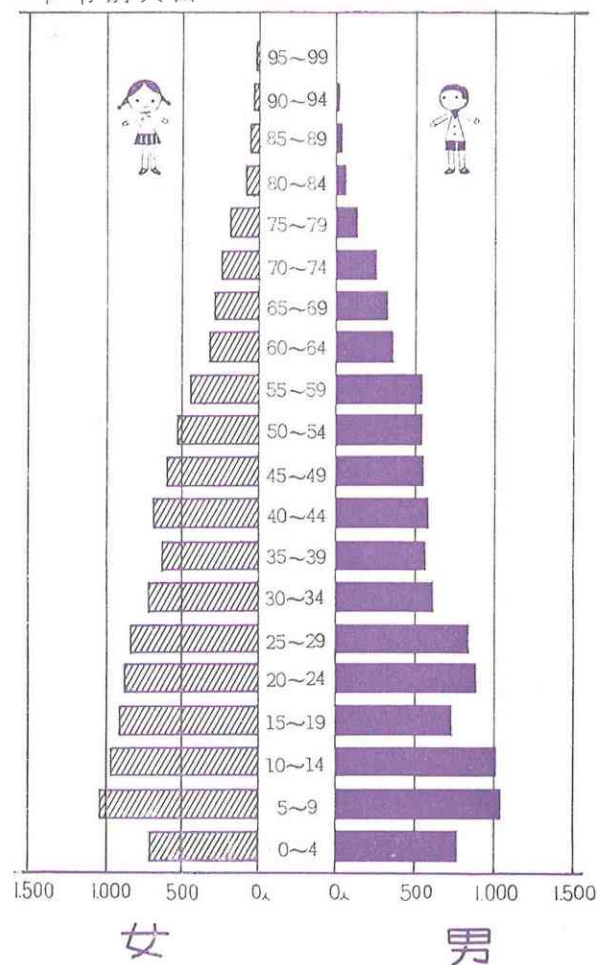
地目	面積		構成比
	面	積	
総面積	67.790	67.23	100
田	15.742	15.60	23.20
畑	5.017	4.97	7.39
宅地	1.288	1.28	1.70
山林	21.822	21.63	32.17
原野	172	0.17	0.25
水面	312	0.31	0.46
その他	23.351	2.318	34.48

労働力人口

労働力状態	総数	男	女
総数	15,232人	7,634人	7,598人
労働力	9,058	5,241	3,817
就業者	8,840	5,106	3,734
休業者	147	81	66
完全失業者	71	54	17
非労働力	6,174	2,393	3,781

(注) 昭和30年度国勢調査による

年齢別人口



年齢別人口

昭和30年国勢調査による確定数

年齢	総数	男	女
総数	20,790人	10,462人	10,328人
0～4	1,491	774	717
5～9	2,078	1,045	1,033
10～14	1,989	1,009	980
15～19	1,640	754	886
20～24	1,734	895	839
25～29	1,667	869	798
30～34	1,436	694	742
35～39	1,345	661	684
40～44	1,398	687	711
45～49	1,286	665	621
50～54	1,248	664	584
55～59	1,031	547	484
60～64	707	369	338
65～69	636	315	321
70～74	523	263	260
75～79	337	140	197
80～84	172	80	92
85～89	58	26	32
90～94	12	5	7
95～99	2		2



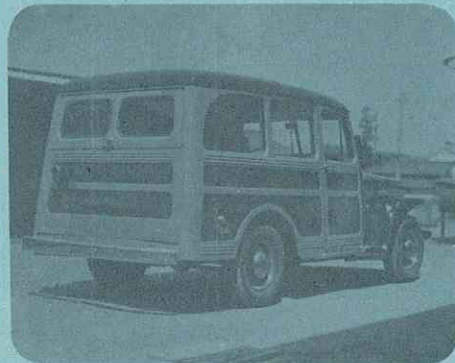
地区別人口、世帯数の推移

地区別	昭和27年		昭和28年		昭和29年		昭和30年		昭和31年	
	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数
総数	11,820	2,360	11,761	2,344	13,764	2,822	13,685	2,830	13,664	2,832
邑久	2,653	532	2,651	532	2,646	535	2,585	531	2,582	525
福田	1,951	386	1,949	386	1,938	386	1,934	378	1,922	379
今城	2,263	453	2,261	457	2,251	454	2,249	464	2,269	465
豊原	1,526	291	1,523	272	1,349	272	1,340	274	1,333	272
本庄	2,161	441	2,159	441	2,157	440	2,156	446	2,166	448
笠加	1,226	257	1,218	256	1,201	254	1,200	256	1,190	256
玉津	—	—	—	—	2,222	481	2,221	481	2,202	482
裳掛	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

昭和32年		昭和33年		昭和34年		昭和35年		昭和36年	
人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数
13,545	2,818	20,924	3,763	20,659	3,759	20,614	3,765	20,303	3,723
2,560	522	2,569	532	2,570	535	2,577	533	2,535	522
1,925	379	1,912	378	1,889	374	1,880	375	1,833	371
2,225	463	2,220	458	2,221	460	2,217	460	2,183	446
1,322	272	1,303	271	1,301	270	1,295	268	1,265	268
2,141	450	2,131	449	2,099	443	2,079	442	2,077	441
1,181	253	1,164	258	1,150	255	1,155	258	1,150	259
2,191	479	2,200	490	2,237	497	2,224	502	2,174	497
—	—	7,425	927	7,192	925	7,187	927	7,086	919

(注) 当該町域による食糧人口、各年9月末現在

10年を かえりみて



昭和27年

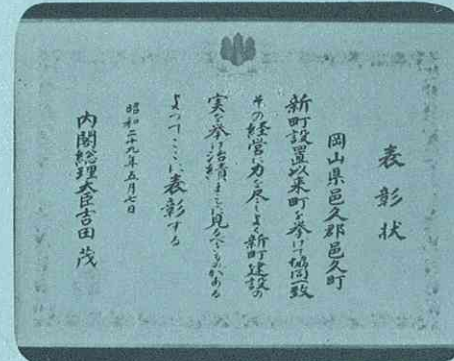
- 4 月 町制施行 邑久中学校講堂において開庁式
- 4 月 奥田町長就任
- 5 月 合併初の町議会開会
- 6 月 小林・加藤両助役就任
- 9 月 邑久町立病院開院
- 10 月 教育委員選挙
- 11 月 邑久町役場庁舎落成

昭和28年

- 1 月 町制施行祝賀式
- 2 月 長沼部落西大寺市へ分離
- 2 月 上寺山養老院開院
- 5 月 病院車購入
- 6 月 台風2号襲来、千町附近に相当の被害をうけ三木知事被害状況視察のため来町
- 9 月 邑久高等学院開校

昭和29年

- 1 月 玉津村・邑久町合併
- 4 月 スクールバス初運行
- 4 月 明德小学校増改築
- 5 月 合併功勞団体として全国初の総理大臣表彰
- 7 月 北島簡易水道竣工
- 10 月 山陽新聞社創立75周年記念事業で模範町村として表彰



昭和30年

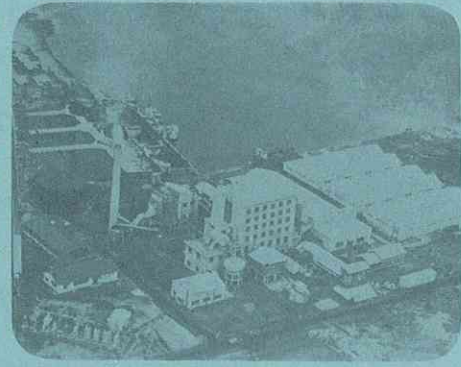
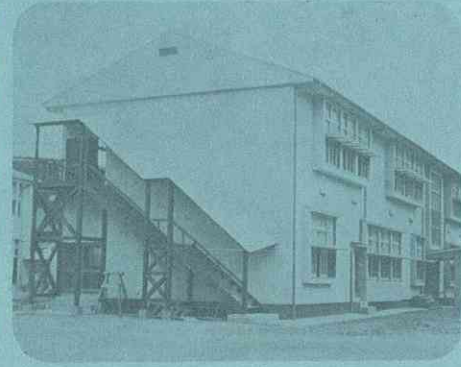
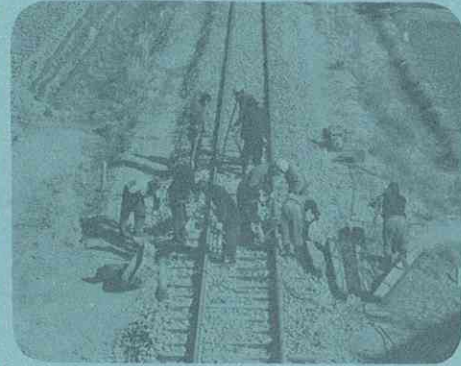
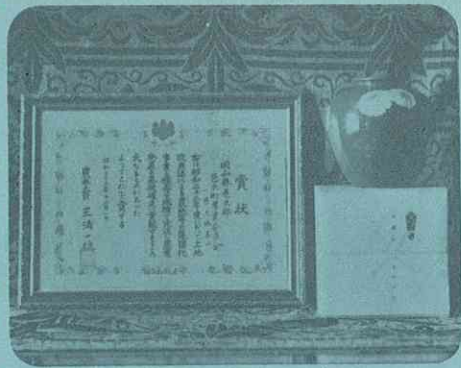
- 1 月 養老院増築工事完成
- 2 月 服部・水野両助役就任
- 5 月 4大工事落成式・今城小学校増築・邑久中学校増築・邑久町立病院増築・福田保育所竣工
- 6 月 山浦簡易水道竣工
- 10 月 国勢調査
- 11 月 古武弥四郎氏を名誉町民に推戴

昭和31年

- 1 月 町長選挙 嘉数町長就任
- 2 月 大河原助役入江収入役就任
- 5 月 東谷簡易水道竣工
- 7 月 邑上橋竣工
- 11 月 下笠加簡易水道竣工

昭和32年

- 1 月 錦海塩業組合塩田造成起工
- 3 月 豊原小学校増改築
- 5 月 福田、円張、庄田簡易水道竣工
- 7 月 世界連邦平和都市宣言を決議
- 9 月 錦海塩業組合製塩工場誘致協定書調印

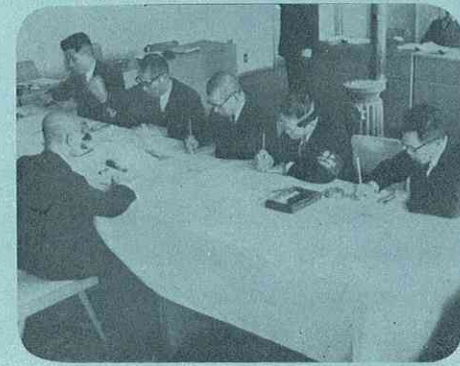


昭和33年

- 3 月 玉津小学校改築
- 4 月 裳掛村・邑久町合併
- 4 月 福谷簡易水道竣工
- 5 月 邑久考古館を邑久中学校構内に移転
- 7 月 光田健輔氏を名誉町民に推戴
- 12 月 農地集団化事業の完遂により農林大臣と全国農業会議所から表彰

昭和34年

- 2 月 邑久牛窓上水道起工
- 3 月 錦海塩業落成
- 3 月 赤穂線日生～伊部間開通
- 4 月 裳掛中学校増築
- 7 月 秩父宮妃 錦海塩業ご視察
- 10 月 裳掛校運動場新設
- 12 月 赤穂線伊部～東岡山間着工



昭和35年

- 1 月 町長選挙 嘉敷町長再選
- 2 月 淳風校全面移転改築
- 4 月 町議会議員選挙
- 4 月 邑久町招魂社建立
- 5 月 正富汪洋氏歌碑建設
- 10 月 国勢調査

昭和36年

- 2 月 邑久・福田・今城・豊原・笠加・各農協合併調印式
- 4 月 明徳幼稚園新築
- 4 月 上水道通水
- 9 月 台風16号接近 虫明その他で床下浸水
- 10 月 西大寺市雄川橋の竣工
- 10 月 未曾有の集中豪雨で傷者死4 家屋倒壊等被害続出
- 11 月 名誉町民古武弥四郎博士 文化功労者の栄誉を受ける
- 11 月 10周年記念事業として奥津町に分収造林事業を行うことにし、同町と契約調印
- 12 月 邑久町農協農業倉庫新築
- 12 月 大富配属の消防車の入魂式

昭和37年

- 1 月 裳掛小学校改築

3 行政



右から
嘉数町長
大河原助役
入江収入役

町の産業のなかで一ばん大きな割合をしめるのは第1次産業の農業であるが、とりわけその経営近代化をすすめることは、町行政のもっとも力をつくしているところであって、呂久町誕生以来、新農村建設計画をたて、農地の交換分合をはじめとしてさまざまな経営改善のやり方について、研究実施をはかってきたが、最近はとくに果樹・酪農をおすすめることに意をそそぎ更に農業並びに漁業の構造改善事業の推進によって、農漁業所得の向上と安定をはかるように努力している。

また同時に第2次・第3次産業の発展策として、国鉄赤穂線敷設および錦海塩業組合製塩工場の誘致をはかり、これを契機としてこれまでの農業依存のかたちから脱けだして、各種産業のつりあいのとれた町づくりをおこない、この基盤のうえに教育施設・文化施設・厚生施設などの充実整備をはかり、もって町民生活の向上発展を期している。

歴代町長

順位	氏名	就任年月日	退任年月日	退任の理由
初代	奥田真須二	昭27. 4. 29	昭30. 12. 31	依願退職
二代	嘉数郁衛	31. 1. 20	35. 1. 19	任期満了
三代	嘉数郁衛	35. 1. 20		

歴代助役

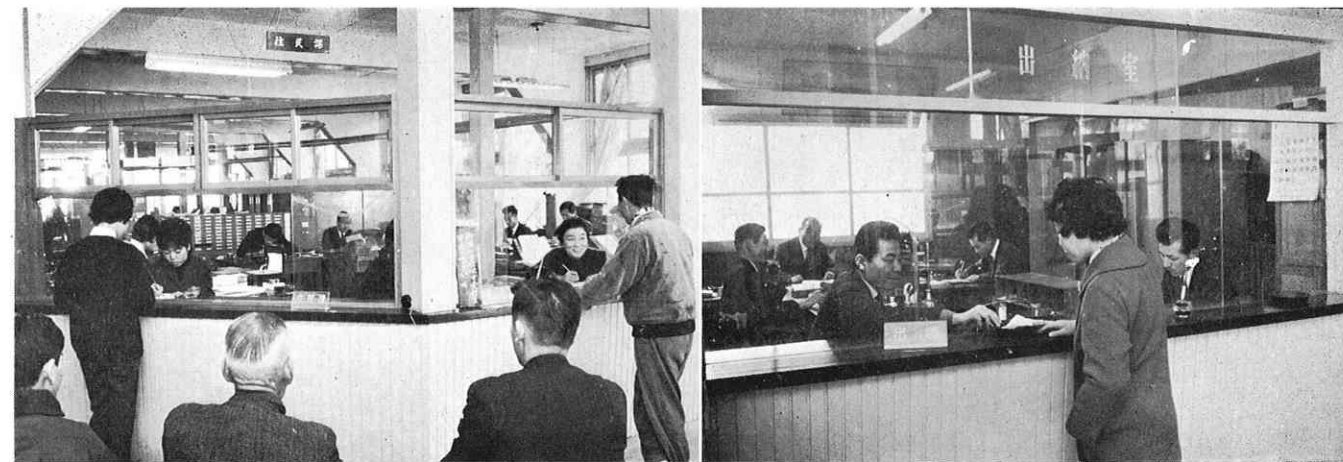
順位	氏名	就任年月日	退任年月日	退任の事由
初代	加藤博	昭27. 6. 4	昭29. 11. 5	一身上の都合
	小林徳太	27. 6. 4	27. 12. 28	依願退職
二代	服部正志	30. 3. 17	30. 12. 31	〃
	水野梶郎	30. 3. 14	30. 12. 31	〃
三代	大河原稔	31. 2. 27	35. 2. 27	任期満了
四代	大河原稔	35. 2. 27		

歴代収入役

順位	氏名	就任年月日	退任年月日	退任の事由
初代	木村靖太	昭27. 6. 4	昭30. 12. 31	依願退職
二代	入江良知	31. 2. 21	35. 2. 20	任期満了
三代	入江良知	35. 2. 21		

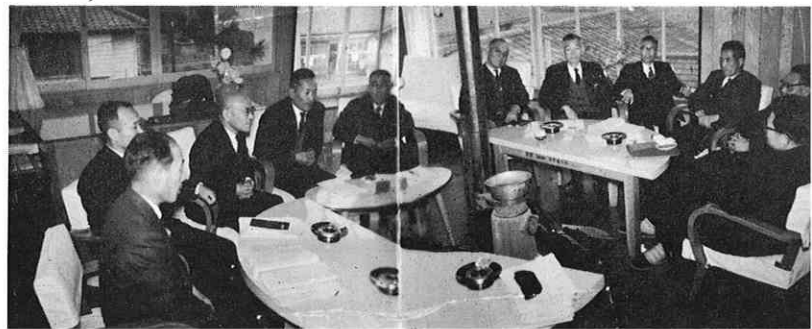
行政機構一覽

	総数	事務技 術吏員	その他 の職員
町長	10	6	4
助役	9	5	4
	12	11	1
収入役	8	5	3
	6	5	1
	8	4	4
	4	4	
	3	2	1
	2	2	
	5	4	1
	5	5	



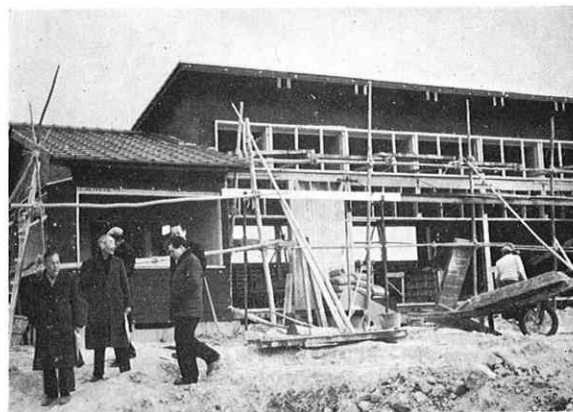


右から
家野 議 町
松本 副 議 長



町 議 会 会 員

議席	氏 名	所属委員会	住 所
1	入 江 幹 夫	産 業	上 笠 加
2	児 玉 勇	土 木	大 土 井
3	赤 枝 九 二 太	文 教 厚 生	大 豊 安
4	宇 津 木 猛 夫	産 業	本 庄
5	横 山 祐 永	土 木	虫 明
6	馬 場 忠 男	〃	下 山 田
7	川 野 貞 夫	総 務	尻 海
8	中 島 達 二	文 教 厚 生	北 島
9	岩 見 正 雄	土 木	尾 張
10	岸 野 鉄 男	文 教 厚 生	豆 田
11	岡 庫 次	総 務	百 田
12	尾 森 政 一	土 木	虫 明
13	田 中 保 吾	文 教 厚 生	虫 明
14	中 山 剛	産 業	豊 原
15	川 野 武	〃	尻 海
16	内 田 秀 雄	土 木	上 山 田
17	海 原 平 八	総 務	虫 明
18	加 藤 博	産 業	北 島
19	森 彦 次 郎	〃	虫 明
20	小 山 秀 一	文 教 厚 生	尻 海
21	清 水 哲 太 郎	総 務	山 田 庄
22	嘉 数 孝	文 教 厚 生	真 徳
23	松 本 五 代 松	総 務	虫 明
24	坂 本 二 郎	〃	福 谷
25	松 本 春 繁	土 木	虫 明
26	家 野 富 太		福 中



上 水島へ研修見学の議員
港湾局で説明をきく
下 教育施設建設現場へ

歴 代 町 議 会 議 長

順 位	氏 名	就任年月日	退任年月日	退任の事由
初 代	岩 井 寛	昭 27. 5. 7	昭 30. 4. 18	一身上の都合
二 代	田 中 義 雄	30. 4. 18	31. 4. 28	任 期 満 了
三 代	家 野 富 太	31. 4. 30	35. 4. 28	任 期 満 了
四 代	家 野 富 太	35. 5. 2	在 職 中	

歴 代 町 議 会 副 議 長

順 位	氏 名	就任年月日	退任年月日	退任の事由
初 代	田 中 義 雄	昭 27. 5. 7	昭 30. 4. 18	議 長 就 任
二 代	日 下 雅 二	30. 4. 18	31. 4. 28	任 期 満 了
三 代	上 野 保 太	31. 4. 30	35. 4. 28	任 期 満 了
四 代	松 本 春 繁	35. 5. 2	在 職 中	





有権者数の推移

年次	有権者数			
	総数	男	女	備考
昭 27	7,075	3,354	3,721	玉津村合併
28	7,106	3,372	3,734	
29	8,491	4,031	4,460	
30	8,568	4,109	4,459	
31	8,621	4,132	4,489	
32	8,664	4,104	4,560	雲掛村合併
33	13,736	6,840	6,896	
34	13,641	6,801	6,840	
35	13,594	6,725	6,869	

当該年町域による基本選挙人名簿確定時

有権者登録者数

昭36.9.15現在

投票区	登録人員数		
	総数	男	女
総数	13,565	6,729	6,836
1. 邑久	1,607	760	847
2. 福田	1,221	587	634
3. 今城	1,437	655	782
4. 豊原	828	385	443
5. 本庄	1,332	631	701
6. 笠加	772	374	398
7. 玉津	1,463	712	751
8. 裳掛	2,448	1,161	1,287
9. 愛生	1,517	893	624
10. 光明	940	571	369



選挙の実施状況

執行日	選挙の種類	投票率
昭 27. 4. 29	邑久町議会議員選挙	92.84%
28. 4. 19	衆議院議員選挙	83.16
28. 4. 24	参議院議員選挙	71.42
30. 2. 27	衆議院議員選挙	82.97
30. 4. 23	岡山県議会議員選挙	84.22
31. 1. 20	邑久町長選挙	81.56
31. 4. 20	邑久町議会議員選挙	92.61
31. 7. 8	参議院議員選挙	68.81
33. 5. 22	衆議院議員選挙	83.24
34. 4. 23	岡山県知事及び県議会議員選挙	74.36
34. 6. 2	参議院議員選挙	68.22
35. 1. 14	邑久町長選挙	86.04
35. 4. 22	邑久町議会議員選挙	90.46
35. 11. 20	衆議院議員選挙	68.93

選挙管理委員会

職	氏名	就任年月日
委員長	岡本久一	昭和36年9月18日
委員	服部秋夫	〃
委員	井上伊勢太	〃
委員	川崎弘海	〃
補充員	大脇義男	〃
〃	吉田守衛	〃
〃	太田秀太	〃
〃	佐藤尚	〃



4 財 政

行政区画，土地名称変更一覧

合併編入年月日	合併 村		新土地名称	区 数	戸 数
	旧 村 名	旧 大 字 名			
昭和 27. 4. 1	邑 久 村	尾 張 山 田	尾 張 山 田	2	215
		山 庄 手 安	山 庄 手 安	1	109
		山 手 安	山 手 安	2	140
		豊 手 安	豊 手 安	1	69
	福 田 村	豆 山	豆 山	4	115
		福 中 元 田	福 中 元 田	5	141
		福 百 宗	福 百 宗	2	67
		百 宗 三	百 宗 三	1	29
	今 城 村	大 富 北 島	大 富 北 島	3	137
		福 山 山	福 山 山	4	157
		向 山 山	向 山 山	2	75
		向 山 山	向 山 山	2	70
	豊 原 村	豊 原 大 長	豊 原 大 東	5	181
		大 長	大 東	2	65
		大 東	大 東	1	24
	本 庄 村	本 庄 山 田	本 庄 山 田	4	222
上 山 田		上 山 田	1	79	
下 山 田		下 山 田	1	130	
笠 加 村	上 笠 加	上 笠 加	2	81	
	下 笠 加	下 笠 加	2	74	
	箕 輪 池	箕 輪 池	1	53	
	北 池	北 池	1	46	
昭和 29. 1. 1	玉 津 村	尻 海	尻 海	6	428
		庄 田	庄 田	1	80
昭和 33. 4. 1	裳 掛 村	虫 明	虫 明	10	1,396
		福 谷	福 谷	5	217
計				72	4,431

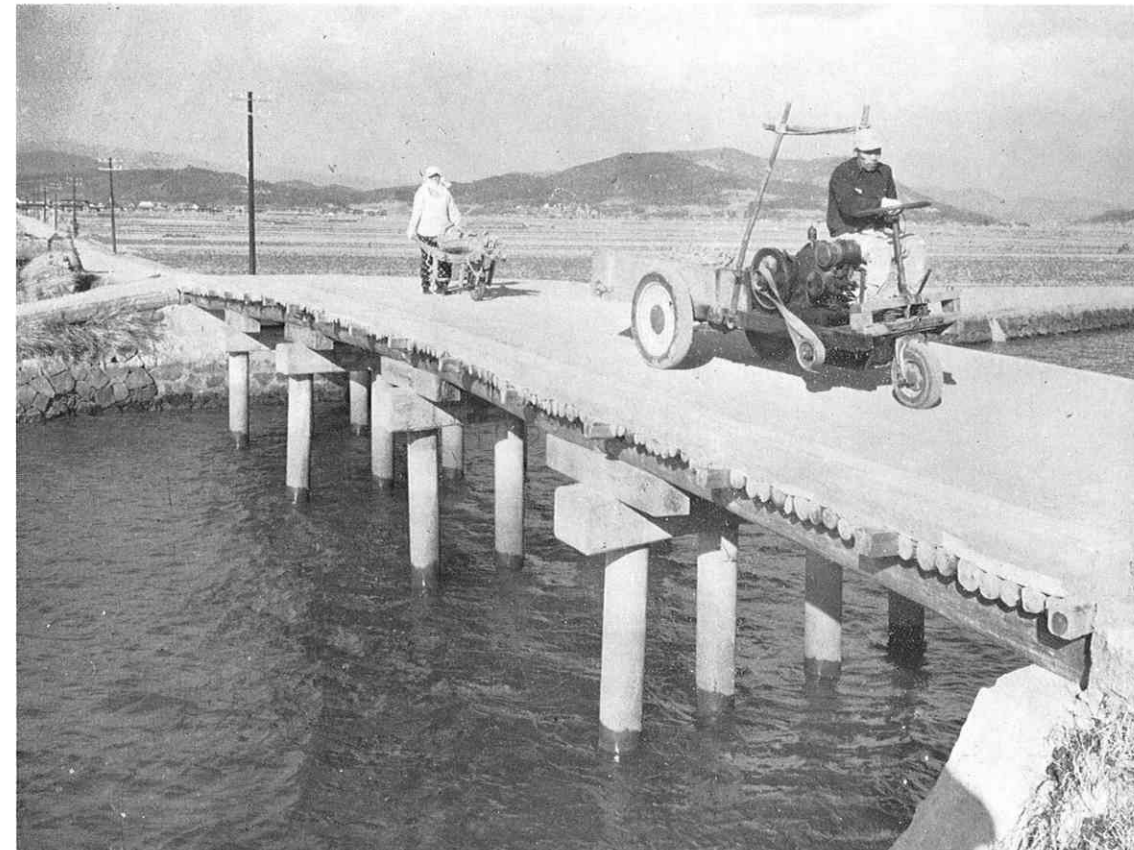
町村合併のおもな目的の一つは、大きくなる財政力を重点的に活用することによって、住民の暮らしをよりしあわせにすることである。

本町も、昭和27年合併以来、飛躍的に大きくなった財政力をもって、教育・保健・社会・産業の施設や、さまざまな土木工事をおこなうための、財政需要に応じて、ちくちくとその整備充実をはかってきたのであった。

しかしながら、町民多年のぞみであった国鉄赤穂線の敷設と、日本最大をはこる錦海塩業組合製塩工場誘致のために、財政需要がいちじるしく大きくなったため、昭和33年度末には34,260千円の赤字を見るにいたった。そこで法律の適用をうけて、この赤字を、34年度から39年度までの6ヶ年間に解消するように、財政再建計画をきめて、34年12月15日いわゆる財政再建の準用団体として自治庁の指定をうけたのである。

それ以来、町予算のすべてにわたってきびしい検討をくわえ、予算の計画的執行によって消費的経費を極力節減することにつとめながら、しかも町の行政水準を維持するとともに、赤字解消計画を確実に実行して再建目的を達成するよう、努力をかたむけている。34・35両年度のはじめの赤字解消計画額は合計9,000千円であったのにたいし、決算では19,399千円と計画の倍額以上を解消することができた。さらに36年度計画額4,874千円をすませると同年度末の赤字残額は9,987千円となって、はじめの計画の6カ年を1年早めて、38年度には完全に赤字解消を達成しいわゆる黒字団体に移行できる見込みである。

なお今後は、錦海塩業組合と、近く設立予定の錦海化学株式会社などに係る固定資産税・電気ガス税等の収入は、町の財政力をたかめる大きな力となることはいうまでもなく、また、この財政力をもととする本町の明日への発展は、期して待つべきものがあるといえるであろう。



一般会計歳入歳出予算総括 (歳入) (単位千円) (その一)

昭和36年度当初予算額				最終	
款	予算額	前年比較	構成比	27年度 (基準実数)	28年度
1 町 税	62,993	1,961	50.1%	35,766	103.0
2 地方交付税	23,542	23,444	18.7	18,376	109.6
3 公営企業及財産収入	61	△ 1	0.1	100	3.0
4 分担金及負担金	—	—	—	118	—
5 使用料及手数料	3,425	262	2.7	809	293.0
6 国庫支出金	6,452	4,045	5.1	7,818	119.7
7 県支出金	3,938	1,322	3.1	13,555	102.9
8 寄附金	1,801	1,664	1.4	9,566	108.4
9 繰入金	4,804	4,804	3.8	218	—
10 繰越金	—	△ 10	—	4,400	75.4
11 雑収入	1,518	68	1.2	1,092	178.6
12 町債	17,335	△ 12,902	13.8	3,839	287.8
歳入合計	125,869	24,657	100.0	95,657	114.3

(註) 旧玉津村および旧裳掛村は中途合併であるが

(その二)

予算額の推移 昭和27年度=100.0						
29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度
110.2	106.1	129.3	127.4	134.7	139.2	179.8
96.8	99.4	100.9	156.1	151.1	128.2	79.0
3.0	4.0	2,084.0	43.0	3,841.0	34,356.0	62.0
—	115.3	—	—	—	—	—
478.6	342.2	249.5	239.9	245.6	371.0	398.4
116.1	55.1	59.1	64.0	77.0	31.3	39.4
66.0	51.1	57.6	37.7	36.6	46.9	55.3
19.3	29.1	40.8	30.1	20.5	33.7	27.2
—	91.7	45.9	550.5	—	—	—
175.3	117.1	12.7	67.8	134.7	0.2	—
198.4	445.6	87.4	91.1	262.1	583.9	232.5
213.9	346.7	114.6	65.1	—	—	573.3
103.5	101.0	100.5	101.3	108.2	102.6	144.5

予算額の比較上・昭和27年度に合併したものと見なしそれぞれ合算した。

(歳出) (単位千円) (その一)

昭和36年度当初予算額				最終	
款	予算額	前年比較	構成比	27年度 (基準実数)	28年度
1 議会費	3,321	951	2.6%	1,774	137.1
2 役場費	19,287	3,148	15.3	19,800	112.9
3 警察消防費	5,311	3,299	4.2	3,727	122.1
4 土木費	15,008	9,373	11.9	19,155	91.0
5 教育費	23,306	8,533	18.5	15,687	131.6
6 社会及労働施設費	6,306	1,394	5.0	6,730	110.8
7 保健衛生費	2,368	△ 2,751	1.9	4,620	175.8
8 産業経済費	14,313	5,562	11.4	12,418	131.2
9 財産費	446	289	0.4	1,526	73.3
10 統計調査費	59	△ 286	0	139	99.3
11 選挙費	76	△ 337	0.1	526	103.4
12 公債費	5,354	△ 485	4.3	1,140	120.1
13 諸支出金	30,214	△ 4,033	24.0	7,290	85.6
14 予備費	500	—	0.4	1,115	59.2
歳出合計	125,869	24,657	100.0	95,657	114.3

(註) 旧玉津村および旧裳掛村は中途合併であるが

(その二)

予算額の推移 昭和27年度=100.02						
29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度
156.3	162.3	152.8	170.5	125.9	129.1	169.5
64.6	64.6	72.1	78.1	82.1	80.1	97.4
56.0	98.6	73.4	129.7	113.8	157.3	80.3
101.0	89.0	57.3	49.7	60.4	63.1	76.4
130.6	105.9	111.5	125.7	145.6	142.5	114.2
101.0	49.2	59.0	60.0	65.9	73.6	87.0
178.5	145.2	262.9	84.8	100.8	132.5	47.6
78.4	87.9	64.4	92.1	126.9	93.4	137.5
39.4	40.7	46.4	47.5	242.8	50.3	18.0
53.2	161.2	36.7	30.2	36.0	161.2	269.8
67.9	71.3	73.4	38.8	58.0	153.4	129.5
113.1	163.7	528.9	997.4	349.8	335.7	481.6
1,859.7	2,602.9	2,179.0	167.5	174.6	145.8	6,573.9
80.7	58.0	64.0	34.5	62.8	66.3	44.8
103.5	101.0	100.5	101.3	108.2	102.6	144.5

予算額の比較上昭和27年度に合併したものと見なしそれぞれ合算した。

別特会計歳入歳出予算総括

(その一) (単位千円)

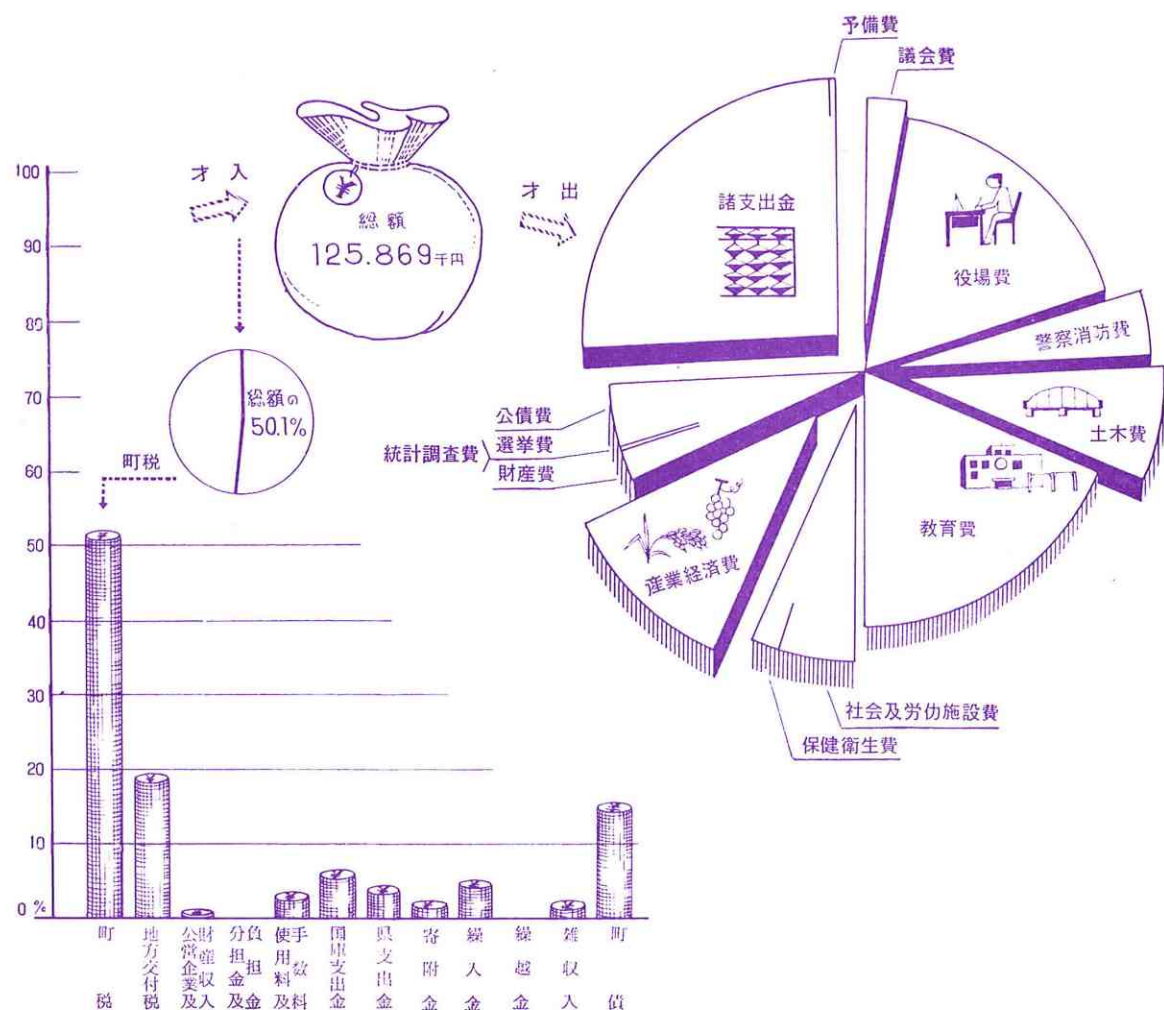
会計別	昭和36年度当初予算額			最終	
	予算額	前年比較	構成比	27年度 (基準実数)	28年度
邑久国保事業	27,226	11,916	45.8%	11,033	144.4
裳掛国保事業	—	△ 3,694	—	2,099	137.4
邑久町立病院	25,045	6,130	42.1	10,620	(17.015)
裳掛診療所	2,951	773	5.0	1,935	130.1
養老院事業	3,196	469	5.4	212	(1,014)
赤穂線塩田建設促進	—	—	—	—	—
簡易水道建設事業(裳掛)	—	—	—	—	—
簡易水道事業(〃)	999	△ 339	1.7	—	—
合計	59,417	15,255	100.0	—	—

(註) 邑久町立病院および養老院は昭和27年度中途開設につき昭和28年度に、また簡易水道は昭和29年度中途開設に

(その二)

年度	予算額の推移 昭和27年度=100.0						
	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度
29年度	188.3	212.2	226.3	199.0	201.8	144.9	148.4
30年度	177.3	201.8	200.2	208.4	194.8	179.9	176.9
31年度	148.8	86.3	96.5	108.0	110.6	117.4	123.4
32年度	159.5	162.6	152.0	133.5	196.6	188.0	119.2
33年度	218.5	134.8	244.9	256.7	261.4	266.1	287.4
34年度	—	—	(12,977)	283.2	408.8	364.6	—
35年度	—	—	—	(2,849)	—	—	—
36年度	361	(740)	176.1	185.3	148.9	175.1	186.4
37年度	—	—	—	—	—	—	—

つき昭和30年度に、その他新設の分については当該年度にそれぞれ基準実数(予算額)を記入した。



一般会計年度別予算及決算

(単位千円)

年度別	最終予算額	決算額			
		歳入	対予算%	歳出	対予算%
27	95,657	87,081	91.0%	83,355	87.1%
28	109,343	107,858	98.6	99,024	90.6
29	99,043	92,665	93.6	86,729	87.6
30	96,652	94,599	97.9	89,197	92.3
31	96,093	93,407	97.2	90,416	94.1
32	96,924	93,944	96.9	88,135	90.9
33	103,478	105,289	101.8	96,732	93.5
34	98,118	115,075	117.3	91,435	93.2
35	138,213	118,879	86.0	133,710	96.7

(註) 旧玉津村および旧裳掛村は中途合併であるが、昭和27年度に合併したものと見なしそれぞれ合算した。

町債

昭和36.3.31現在

事業別	未償還額
災害復旧事業債	1,858,000
義務教育施設整備事業債	11,009,000
一般単独事業債	8,933,000
交付公債	2,899,000
簡易水道事業債	8,222,000
病院事業債	1,409,000
合計	34,330,000

町有財産総括

昭和36.11.30現在

区分	数量
土地(宅地)	102,972m ²
建物	275,536m ²
有価証券及其他積立金	7,229,086円
奨学資金積立金	10,558円
公民館建築資金積立金	449,528円
内 財政調整金積立金	5,806,000円
電信電話債券	608,000円
山陽放送株式	10,000円
岡山県国保連合会予託金	766,000円
岡山県信用保証協会出捐金	150,000円

町 税

町 税 の 累 年 比 較

(現年度調定分) (単位円)

年 次	調 定 総 額	調 定 内 訳			指 数	一 世 帯 当 平 均	人 口 一 人 当 平 均
		町 民 税	固 定 資 産 税	そ の 他 の 税			
27	35,262,991	16,335,097	14,252,615	4,675,279	100	9,546	1,703
28	36,771,890	18,089,000	14,148,655	4,534,235	104	9,927	1,776
29	39,590,108	12,152,995	19,005,960	8,431,153	112	10,617	1,930
30	39,045,631	11,783,846	18,303,640	8,958,145	111	10,533	1,884
31	46,440,966	15,842,552	22,112,275	8,486,139	132	12,555	2,253
32	46,739,198	14,478,090	23,924,986	8,336,122	133	12,571	2,277
33	48,147,985	13,453,137	24,639,900	10,054,948	137	12,940	2,343
34	53,028,485	15,225,779	24,876,350	12,926,356	150	14,118	2,581
35	65,849,017	16,208,189	35,653,810	13,987,018	187	17,759	3,261
36	66,553,323	19,876,883	33,892,540	12,783,900	189	17,833	3,309

旧玉津、裳掛村分をふくみ、国民健康保険税はのぞく。
昭和36年度分については年間調定見込額による。



*納税は日頃日掛けの心かけ。と毎日納税貯金箱を回している尻海中東納税貯蓄組合員

税 目 別 調 定 収 入 状 況

(単位円)

税 目	昭 和 3 4 年 度			昭 和 3 5 年 度			収 入 比 較	
	調 定 額	収 入 済 額	収 入 率	調 定 額	収 入 済 額	収 入 率	金 額	比 率
総 額	75,554,451	61,283,565	81.1%	89,670,971	76,308,115	85.1%	15,024,550	4.0%
町 民 税	15,225,779	13,989,832	92.0	16,208,189	15,371,879	94.8	1,382,047	2.8
固 定 資 産 税	24,876,350	21,515,763	86.5	35,653,810	33,023,880	92.6	11,508,117	6.1
自 転 車 荷 車 税	951,180	808,860	85.0	1,089,470	954,530	87.6	145,670	2.6
たばこ消費税	5,615,170	5,615,170	100.0	5,522,660	5,522,660	100.0	△ 92,510	—
電 気 ガ ス 税	6,359,436	6,359,436	100.0	7,374,888	7,374,888	100.0	1,015,452	—
木 材 引 取 税	570	570	100.0	—	—	—	△ 570	—
滞 納 繰 越 分	10,306,365	4,357,014	42.3	10,561,614	4,385,777	41.5	28,763	△ 0.8
国民健康保険税	9,056,980	7,621,303	84.1	9,778,440	8,579,950	87.7	958,647	3.6
全 滞 納 繰 越 分	3,162,621	1,015,617	32.1	3,481,900	1,094,551	31.4	78,934	△ 0.7

昭和27年度分については旧玉津、裳掛村分をふくむ。

納 税 組 合 設 立 状 況

(昭和36.11末現在)

区 別	昭 和 3 1 年 度	昭 和 3 2 年 度	昭 和 3 3 年 度	昭 和 3 4 年 度	昭 和 3 5 年 度	昭 和 3 6 年 度
組 合 数	31	53	79	98	106	108
加 入 戸 数	711	1,273	1,830	2,324	2,484	2,567
加 入 率 %	19.2	34.2	49.6	61.8	66.0	68.3

5 産業経済



みかんの集団産地を旨として、昭和50年100ha目標、32～36年約70,000本が玉津・裳掛方面に栽培されて、出荷を目前にひかえている。

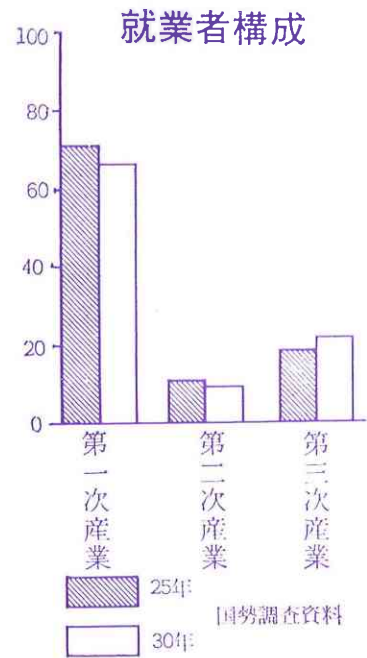
産業構成のあらまし

昭和27年邑久町発足以来、旧玉津・裳掛村の合併と経済事情のうつりかわりにより、産業構成は大きく変化をしめしている。

高度経済成長のなかで、所得の面において27年を100とした場合、35年は第1次産業130%・第2次産業273%・第3次産業234%の伸びをしめし、就業の面において25年を100とした場合、30年は第1次産業3.2%減・第2次産業0%・第3次産業3.7%増となっている。

錦海塩業組合工場の誘致、中小企業の拡張、町外他産業への就業者などにより、第2次・第3次産業の現況には大巾な伸びがうかがえる。

所得別にわけると第1次産業が47.26%・第2次産業が10.2%・第3次産業25.17%・その他17.36%となり、第1次産業によって町の基盤が構成されていることが明らかである。



総人口と就業者数および産業構造の推移

調査年	総人口 A	就業者数 B	B/A	第1次産業 (%)			第2次産業 (%)			第3次産業 (%)		
				総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
25	21,406	9,022	42.1	71.6	55.2	44.8	9.4	75.6	24.4	19.0	65.5	34.5
30	20,790	8,987	43.2	68.4	52.7	47.3	8.9	82.0	18.0	22.7	63.1	36.9

産業活動のあらまし

本町は農業を主体とした第1次産業部分に属する町で、米麦・たばこ・馬鈴薯を基幹とする農業がいとなまれてきた。したがって町の行政も米・麦等の食糧増産中心の施策がすすめられ、主として土地条件の整備、病虫害の防除事業がおこなわれ、なかでも農道の改良、暗渠排水事業、農地集団化事業に重点をおいている。

集団化事業は29年から33年まで西部地域全域におよんで、面積555ha、その実績は見るべきものがあり、さらに32・33両年にわたり適地適産性にもとずく新農山漁村建設事業がおこなわれ、生産および施設の拡充がはかられたが、事業総額1,625万、国庫補助613万を要している。

農業は生産性がひくく米麦依存から成長部分へうつっていかなくてはならず、畜産・果樹・そさいへの振興施策がとられ、就業構造の改善と同時に農業自体の構造改善が、今後課せられた大きな課題といえよう。農林漁家の類型に応じた経営方式をかんがえ、農林漁業振興の躍進を期待したい。

その間、農業委員会の統合、農業共済組合の統合、農業協同組合の合併、農業改良普及所の統合、邑久和気土地改良区の誕生を見、それぞれの立場において活動がおこなわれ、特に、本庄農協の有線放送、邑久町農協の近代的農業倉庫の建設は劃期的大事業である。



施肥播種装置を備えた麦まき作業

このような方向づけで、専業農家群は生産性の向上によって営農基盤を固め、零細農家群は他産業からの収入を高めて、それぞれ所得をました農家群の経済的安定のうえに立って、さらに高度の農業振興をはかるように努めている。

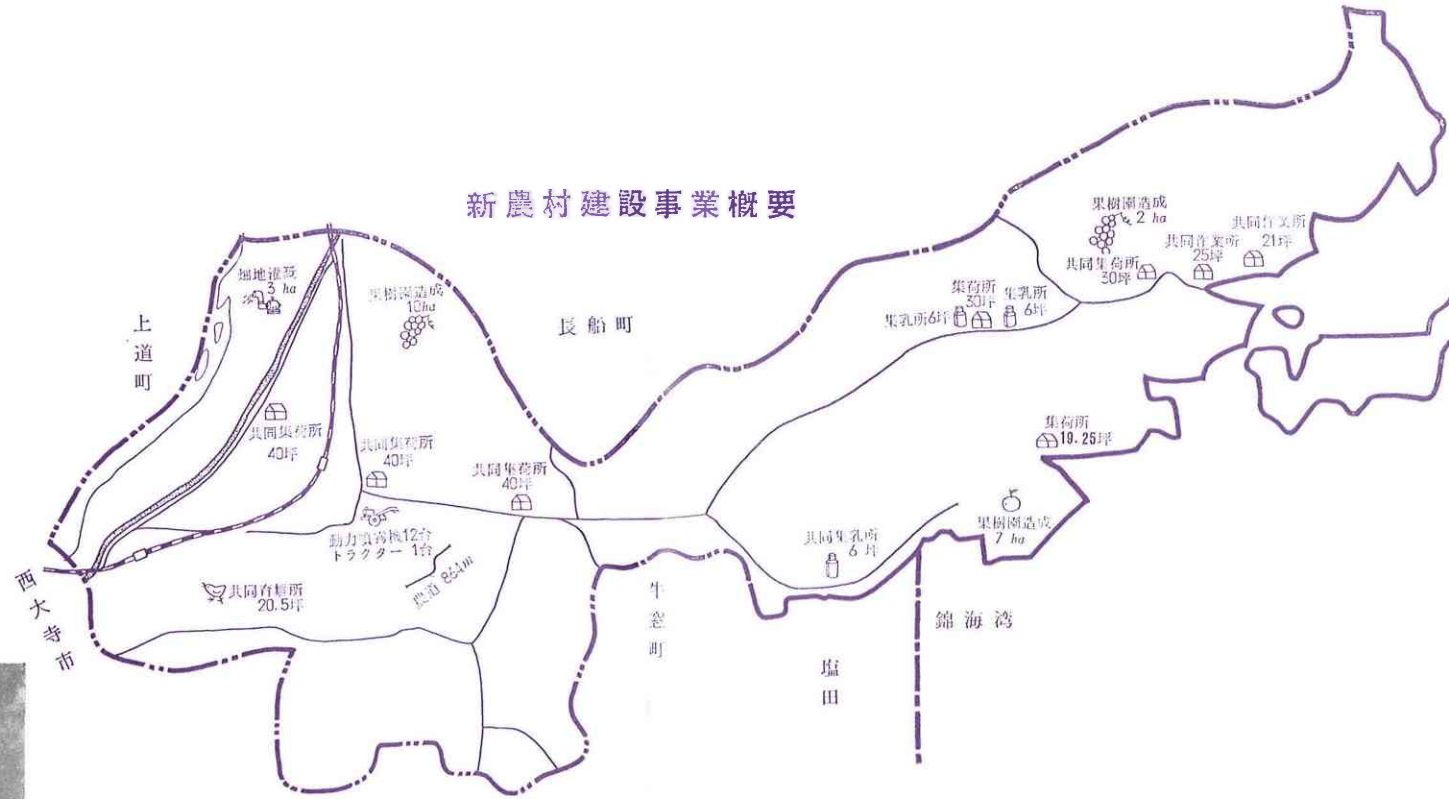
農 業

本町の農業は、水田を主とする平坦地農業と畑を主とする畑地農業とにわかれている。生産額は米麦が主位をしめ、畜産物・たばこ・馬鈴薯・はっか・その他となっている。米は収量の限界に達したと見られているが、今後は省力栽培への移行がかんがえられ、麦は他の作物へ転換、ビール麦・小麦の省力栽培が行われるものと思う。生産を維持するためには土地改良事業をすすめることが必要となってくる。

畜産にあっては、乳牛1,000頭以上、鶏10万羽、豚1,000頭以上、肥育牛年間200頭以上を目標に、果樹はぶどう・みかん・そさいは契約栽培、いずれも集団産地形成にもっていき、畜産・果樹を主体とする経営に発展させる。農業所得27年を100として今後の目標は170%をめざし、そのためには技術の強化と資本装備の充実、農場整備、環境整備を強力にすすめなくてはならない。



共同集荷場



新興するぶどう園

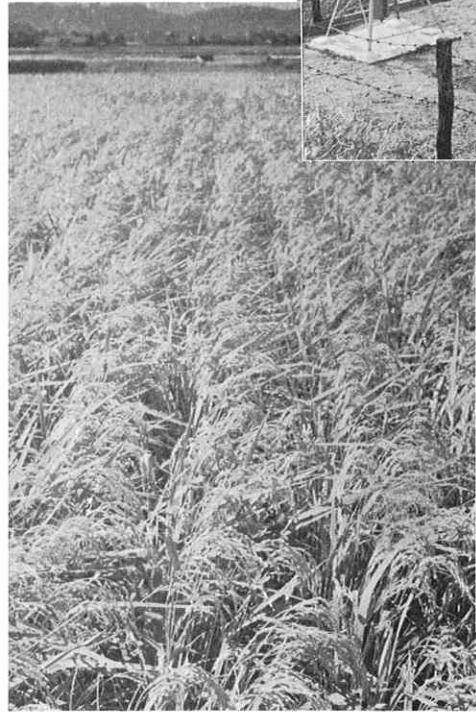


水稲の推移

年次	区分	面積 ha	反収 Kg	生産量 t	生産額 千円	価格
						正味60K 等 円
25		1561.4	414	6.463	233.508	2,168
26		1510.5	348	5.261	246.530	2,812
27		1555.5	393	6.112	305.600	3,000
28		1518.0	385	5.847	319.597	3,280
29		1515.3	280	4.246	258.157	3,648
30		1516.5	444	6.726	437.392	3,902
31		1517.6	391	5.938	375.875	3,798
32		1516.4	372	5.641	367.793	3,912
33		1510.4	426	6.434	418.210	3,900
34		1508.8	391	5.899	384.379	3,910
35		1513.0	439	6.642	435.450	3,934



町立農業気象観測所



ぬいしゆ圃



大型トラクターによる水田深耕



水路の整備



集団暗渠排水作業



手開こんによる農地造成“大平山”



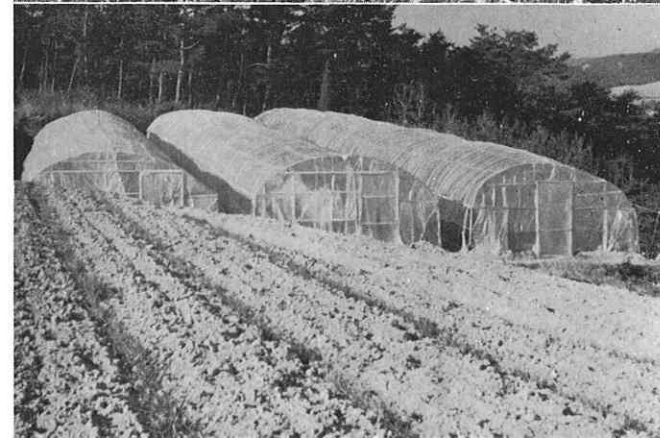
上左 酪農協同経営“城南牧場”
 上右 企業化される養鶏
 右下 共同養豚

主要農産物生産高の推移

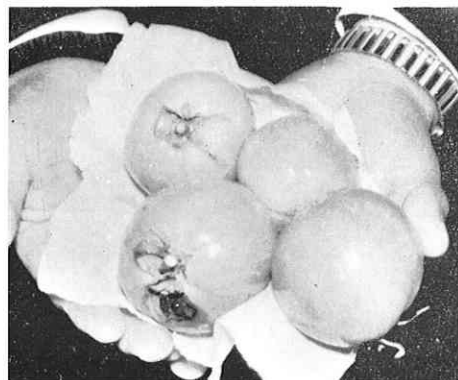
区分 種別	昭和25年				昭和35年			
	作付戸数 戸	作付面積 ha	収穫高 t	生産額 千円	作付戸数 戸	作付面積 ha	収穫高 t	生産額 千円
総数	—	—	—	418,000	—	—	—	747,077
水稲	2,595	1,561.4	6,463	233,508	2,474	1,513.0	6,642	435,450
小麦	2,501	947.5	2,463	59,851	2,160	641.9	1,733	62,787
裸麦	2,442	523.7	1,191	28,941	1,763	353.0	921	34,795
大麦	75	8.0	24	502	428	139.6	261	14,976
ビール麦	—	—	—	—	257	138.2	370	14,989
甘藷	2,429	118.9	1,855	16,695	1,760	61.0	1,098	10,980
馬鈴薯	1,474	152.6	2,289	25,179	秋631 春1,159	121.2 98.6	1,818 1,031	27,270 15,465
大豆	1,976	25.8	31	1,023	841	44.0	66	4,356
南瓜	316	157.1	3,535	21,210	241	44.0	1,320	9,240
西瓜	416	11.3	339	3,729	404	19.0	713	8,556
白菜	311	16.7	501	4,008	171	8.5	478	4,302
たばこ	300	33.5	80	17,600	283	74.0	170	59,309
はっか	162	9.5	1	4,750	374	72.7	10	36,350
ぶどう	—	—	—	—	145	11.4	171	4,560
飼料 イタリヤン 飼肥レ	—	—	—	—	292	26.2	524	2,096
飼肥レ	416	25.1	251	1,004	332	39.9	599	1,596



カーネーションの温室栽培



ビニールハウスによるトマト抑成栽培



経営耕地面積と規模別農家戸数

地区別	経営耕地面積				規模別農家戸数					果樹園 経営戸数	経営耕地 団地数
	総数	田	畑	樹園地	総数	5反未満	5反~1町	1町~2町	2町~3町		
総数	18,860	14,467	4,202	191	2,703	1,029	979	681	14	142	18,219
久	3,050	2,827	215	8	406	134	147	124	1	14	2,197
福田	2,815	2,327	472	15	341	103	126	106	6	13	1,929
今城	2,610	2,341	271	9	350	116	121	113	—	5	1,794
豊原	1,825	1,653	168	4	236	76	89	70	1	4	1,302
本庄	2,919	2,169	735	15	379	118	143	117	1	17	3,083
笠加	1,726	1,517	162	47	225	86	63	71	5	24	1,274
玉津	1,657	761	865	31	314	164	116	34	—	30	2,055
裳掛	2,247	871	1,314	62	452	232	174	46	—	35	4,585

(1960年農林統計調査資料)

家畜飼養頭数飼養戸数等推移

年次	区分	乳牛		役肉用牛		馬		豚		めん羊		山羊		にわとり	
		戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	羽数
25		82	113	1,506	1,606	176	182	16	36	12	20	157	169	2,238	13,493
	総数	400	610	1,018	1,073	17	17	8	59	48	65	249	267	1,320	42,949
	久	53	88	145	147	7	7	—	—	8	12	36	37	229	3,223
	福田	56	86	152	157	3	3	2	15	4	7	36	40	185	3,125
	今城	51	76	97	98	3	3	1	3	11	17	28	29	196	3,886
35	豊原	34	45	71	73	3	3	1	2	3	3	24	24	97	1,598
	本庄	32	50	175	187	—	—	—	—	5	6	35	39	189	23,416
	笠加	41	52	95	100	1	1	—	—	5	5	9	11	79	994
	玉津	55	79	114	122	—	—	1	5	7	10	37	38	182	5,329
	裳掛	78	134	169	189	—	—	3	34	5	5	44	49	163	1,378

(1960年農林統計調査資料)

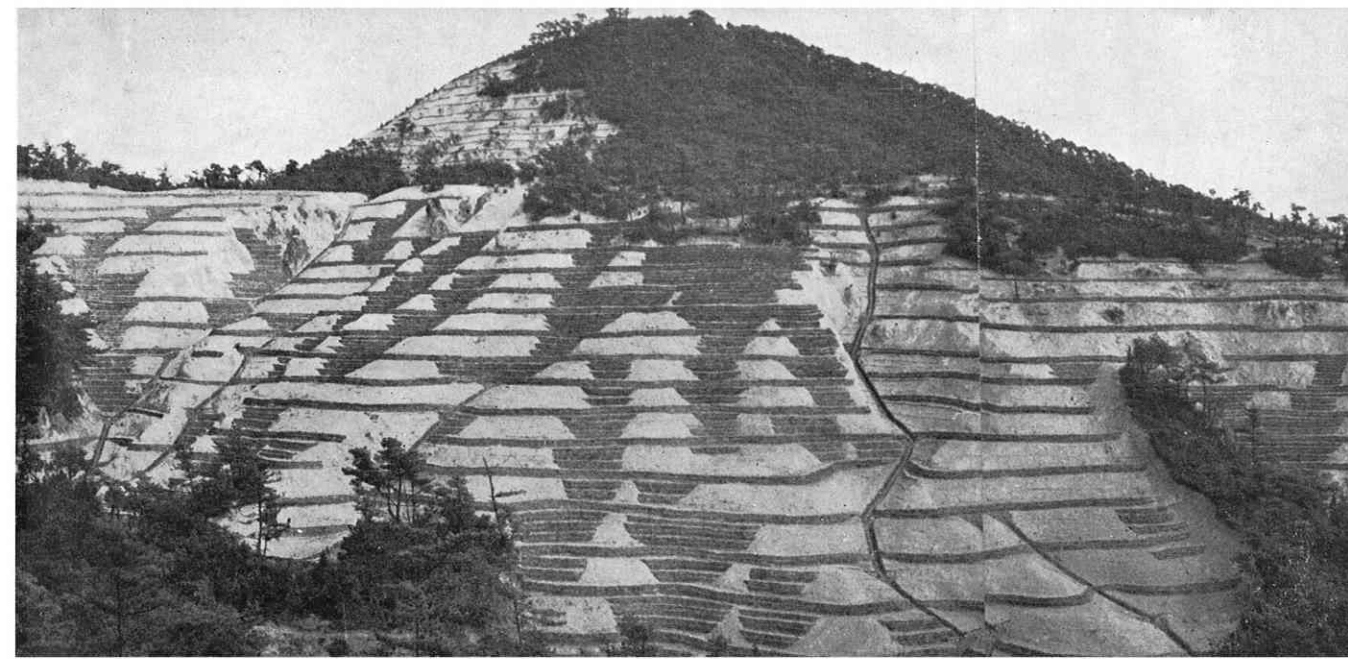
農家就業構造の現況

耕地規模	総農家戸数	第一種兼業	第二種兼業	計	総人員	一戸当平均家族	農業従事者		計	比率	
							男	女		男	女
3 反未満	594	30	452	482	2,416	4.06	488	688	1,176	41	59
3 ~ 5	434	77	238	315	1,860	4.30	485	549	1,034	46	54
5 ~ 7	417	134	104	234	1,998	4.70	580	607	1,187	48	52
7 ~ 10	562	165	50	215	2,879	5.10	889	867	1,756	50	50
10 ~ 15	580	170	14	184	3,566	6.10	1,069	991	2,060	51	49
15 ~ 20	101	18	—	18	667	6.60	217	187	404	53	47
20 ~ 25	14	1	—	1	85	6.00	28	25	53	53	47
計	2,703	595	858	1,453	13,471	4.90	3,756	3,914	7,670	48.7	51.3
昭25年	2,805	609	518	1,127	15,004						

(1960農業センサスによる)

主要農機具所有台数 (1960農業センサスによる)

機種	農家数	台数	農1戸当普及台数	機種	農家数	台数	農1戸当普及台数
動力耕耘機	864	877	0.32	動力収摺機	76	76	0.03
発動機	1,299	1,457	0.54	噴霧機	21	21	0.01
電動機	74	76	0.03	カッター	70	71	0.03
動力脱穀機	1,401	1,411	0.52	揚水機	473	479	0.02



林業

林野面積は町ぜんたいの約32・19%にあたり、耕地面積とあいなかばしているが、立地条件にめぐまれず、そのほとんどが兼業の零細規模であり、生育がよいとはいえない。一部に造林、瘦悪林の改良、撫育更新がおこなわれているが、あまりさかんとはいえない。山地の活用のため林野改良をおこない、特用樹種の造林、林道の整備、治山事業をすすめ、森林の保護と収益性の向上につとめることがたいせつである。

治山10カ年の歩み

年度	区分	施行地区	施行面積	工事金額	植栽本数
27		豊原	17.2 ha	2069,000 円	95,988 本
28		豊原, 玉津	19.9	2983,200	107,849
29		〃	15.0	2322,500	60,000
30		〃	13.4	2372,500	75,000
31		〃	8.9	1960,000	48,000
32		豊原	6.4	960,000	42,755
33		豊原, 玉津	23.0	3105,748	135,019
34		玉津, 裳掛	12.2	1730,771	55,315
35		裳掛	5.0	1226,416	29,124
計			121.0	18,730,135	649,050

林野現況

総面積	所有別			林家数		
	国有	町有	民有	総数	農家	非農家
21822 反	3337 反	46 反	18439 反	1175 戸	1148 戸	27 戸

合併満10周年記念事業

分収造林

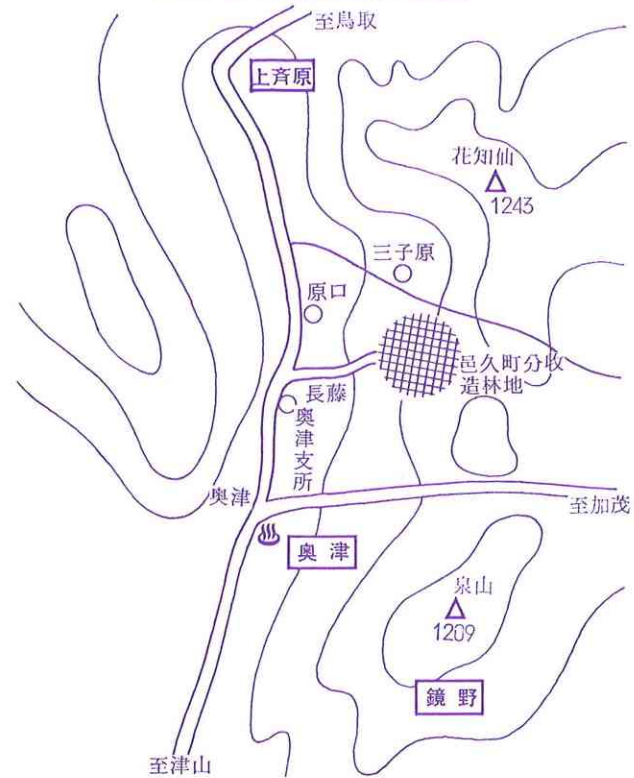
邑久町が誕生以来、満10周年を迎えることになりましたので、この意義ある合併を記念し、併せて町の基本財産の造成にもなる事業として分収造林を行うことは最もふさわしい行事であるとの考え方から昭和36年4月現地視察以来各方面の教度にわたる調査研究、実地踏査が行なわれ、昭和36年11月20日、邑久町と奥津町との間に造林契約を締結して同年11月起工の運びとなりました。

造林計画の概要

- ◎ 土地所有者、岡山県苫田郡奥津町財産区
- ◎ 施行場所、岡山県苫田郡奥津町大字長藤呑水地内673～2,6
- ◎ 施行予定面積、44町6反
- ◎ 植栽樹種、すぎ、ひのき、からまつ、あかまつ
- ◎ 植栽期間、自昭和36年、至昭和45年
- ◎ 地上権存続期間、昭和36年11月20日から昭和96年11月19日まで
- ◎ 分収歩合、邑久町55%、奥津町45%

標高600～1000mの地点谷間のせせらぎは清くして流れはつきず、大気は清澄にして靈気満ちるこの奥地につぎつぎと植えられて行く幼木はあたかも子供の成長するかのよう、町民皆様の真の愛護を受けてここに邑久町の息のかかった立派な森林造成が期待される。

邑久町分収造林位置図



水産業

本町水産業の実態は、淡水漁業としては見るべきものがなく、主として内海漁業が行なわれている。漁獲高は魚類が47%を占め、次に貝類が30%、その他となっている。内海漁業は年々魚族が減少し、漁場が縮小され、今後は養殖、養魚に重点を置き、漁場の開拓を行い、技術の向上と相まって水産業の構造改善を行い、漁業所得の増大を図らなければならない。



ハマチの養魚

漁業世帯数、世帯人員数及漁業従事者数

年 度		正 員	準 員	合 計
		組 合 数 人	組 合 数 人	
	総数	198	119	317
35	玉津	38	0	38
	養掛	160	119	279

漁 船 数

年 度		総隻数	無動力船隻数	有動力船		
				隻数	噸 数	馬力数
	総数	257	62	195	240.7 t	1053.3 HP
35	玉津	41	9	32	35.2	175.0
	養掛	216	53	163	205.5	878.3

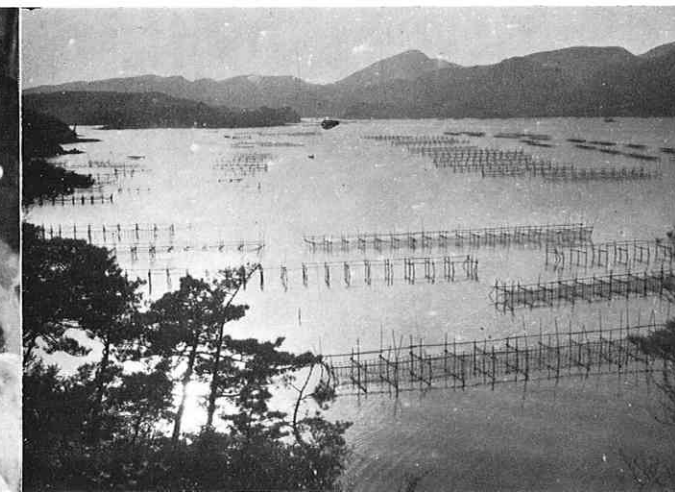
水 産 漁 獲 高

年 度	総 数		魚 類		貝 類		そ の 他	
	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額
3 2	544,939 Kg	41,583 千円	314,734 Kg	22,031 千円	114,968 Kg	11,486 千円	115,237 Kg	8,066 千円
3 3	624,689	53,861	299,667	20,976	203,948	24,473	121,074	8,412
3 4	622,439	54,975	306,721	23,004	151,324	19,672	163,894	12,299
3 5	617,838	74,259	351,590	35,159	149,520	22,428	116,728	16,672

魚 市 場



養 殖 か き 棚



商 業

邑久町商工会

本町合併と同時に旧邑久村にあった邑久商工会を解散して本町一円を区域として邑久町商工会を設立した。つづいて、旧玉津村・裳掛村をそれぞれ合併して大邑久町の実現に伴い、商工会もこれに呼応して町一本化をはかり、現在では会員約300名を擁する商工会となった。昭和35年10月商工会の組織等に関する法律の施行によって、商工会も法人化されるとともに経営改善普及員を設置して、税務金融商店指導、企業等の事業を積極的に行っている。

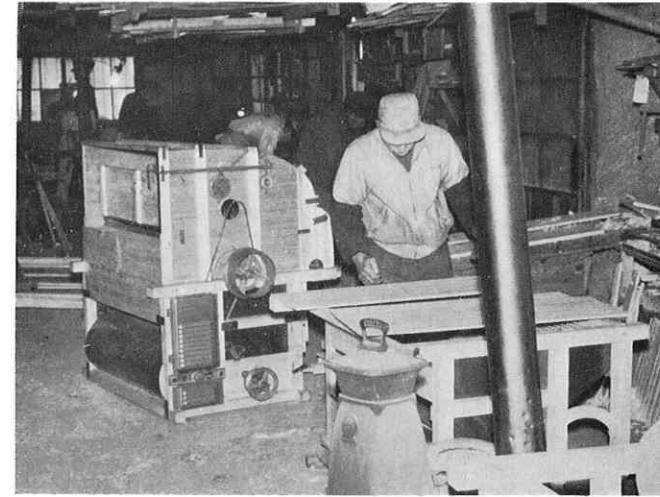


業種別の推移

業種別 年度	卸売業	衣服身の まわり品 小売業	飲食料品 小売業	飲食店	自転車 荷車 小売業	家具・建 具・什 器 小売業	その他 小売業	計
31	4	20	86	11	12	11	20	164
33	9	19	88	12	13	16	27	184
35	9	15	92	9	15	18	25	183

工 業

本町内の主なる工業としては、大企業として錦海塩業組合、中小企業として製網、農機具製造等をはじめ若干の工業があるのみである。今後県南広域都市計画地域として、本町に適合した工場を積極的に誘致して、産業構造の改善を行い町民の所得の向上を期する方針である。

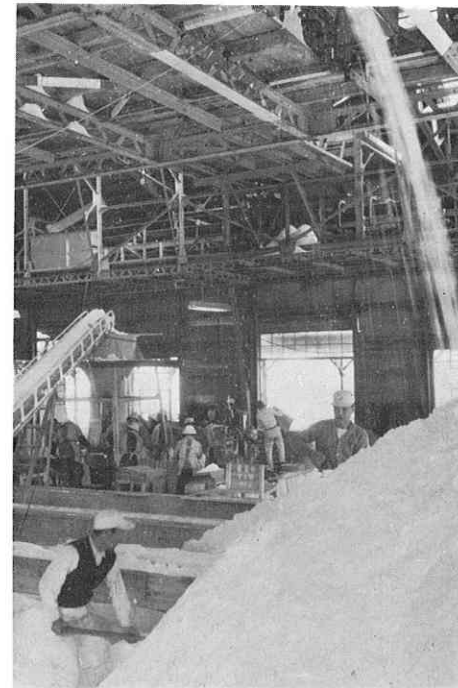


農機具工場



製網工場

製塩工場



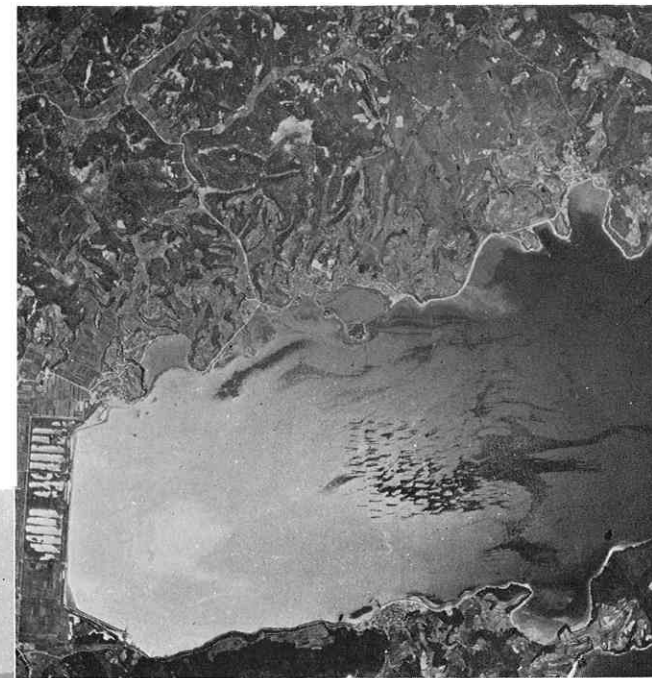
業種別現況

区 分	食糧品	繊維	木 材 製 品	窯業土 石製品	機械	化学
事業所数	11	7	3	4	5	3
従業員数	30人	21	9	8	35	14
生産高	千円 30,000	5,300	1,000	1,500	17,000	11,716

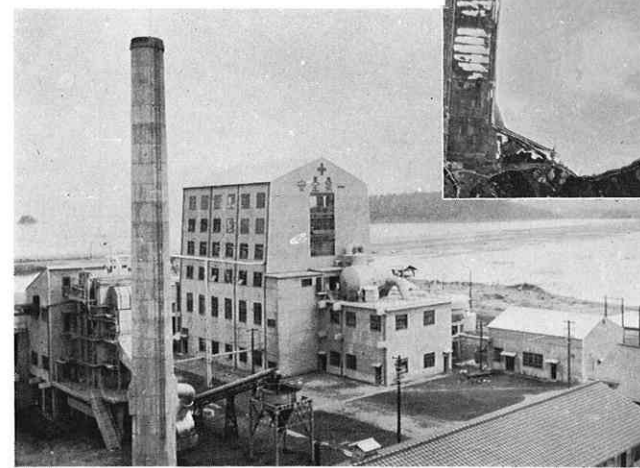
6 建設

千町平野を母胎として、ここに平和な理想郷を建設することを目標に、昭和27年6ヵ村合併による邑久町が誕生して以来小さい村では出来なかった数々の建設事業を実施してきたが、その目ぼしいものをひろってみると別図のようにになっている。

合併と同時に建設した新庁舎をはじめ、病院、養老院、保育所、教育施設の整備等新町建設の基本的事業に加え、特に大きな事業として、赤穂線の建設、錦海塩業の工場誘致、上水道の敷設の三つをあげることができる。道路網の完成、河川港湾の整備等、土木事業の実施は今後年をおって重点的に推進して行く方針である。



錦海湾の鳥瞰



錦海湾塩田開発のあらまし

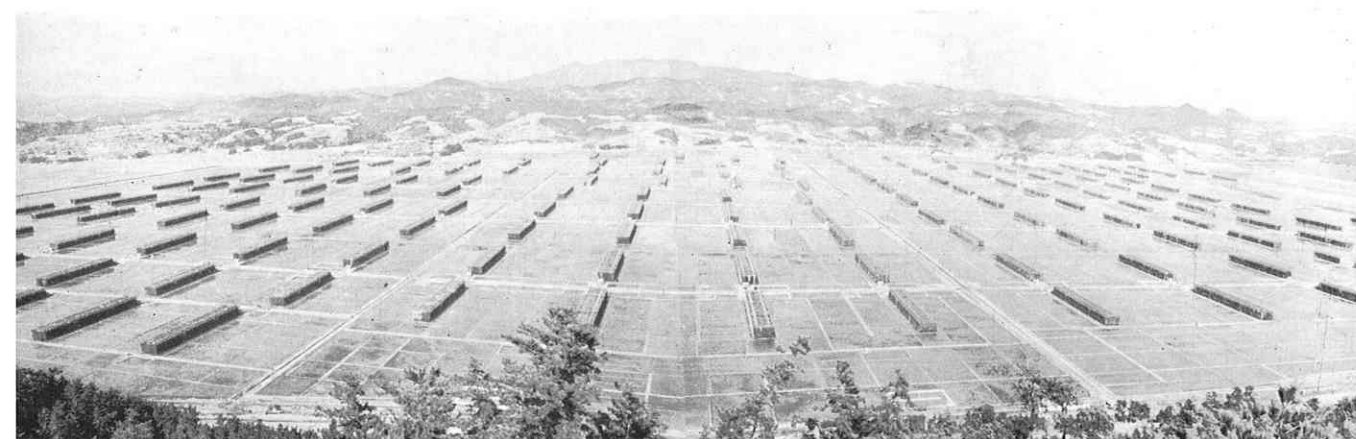
全国一の製塩規模を誇る工場誘致第一号

本町尻海から牛窓町師楽平兵衛林をつなぐ延長1,874mの錦海湾口をしめきって築堤をおこない、約500ヘクタールの塩田を造成する事業が、錦海塩業組合（理事長田畑久宣）の手によって昭和32年1月着工。

粘土である海底の軟弱地盤のうえに築堤をおこなう困難にうちかかって、1年半の日子と5億2千万円の巨費を投じて、各方面注視のうちに33年5月締切を完成。

こえて34年4月には、尻海・長浜地区にエゼクター加圧濃縮併設四重効用真空式（年産能力93,000トン）をそなえる近代的製塩工場が完成して操業の運びとなり、本町東部沿海地区は一躍工業適地地帯として脚光をあびることとなった。

現在従業員341人、全面的操業をつづけて生産に努めている。





開通せまる国鉄赤穂線

山陽本線相生駅からわかれて、海岸線にそい東岡山駅にいたって再び山陽本線につながる、延長57kmの国鉄赤穂線の全線開通は、沿線住民待望のうちに目前にせまってきた。

赤穂線は、とおく昭和11年相生駅から建設をすすめられたが、第2次世界大戦によって工事中断のやむない状態になり、戦後ふたたび着工、26年12月相生～赤穂間（10.54km）、30年3月赤穂～日生間（11.7km）、33年3月日生～伊部間（12.47km）がそれぞれ開通した。

つづいて多年の懸案であった伊部以西の路線決定ともない、家屋移転・用地買収等の困難な問題もあったが、地元関係者の熱心な協力と支援によって、これらの諸問題も円満に解決をみ、国鉄大阪工務局の設計にもとづいて建設工事がすすめられ、全工程の完成もちかい。

おもえば、われら町民が多年の夢であった晴れの処女列車をむかえる感慨はつきない。

電化完成のちかい山陽本線の補助線として、赤穂線のもつ役割はおもく、沿線の産業と文化の発展、交通の利便に寄与するところは、今から大きく期待される。



7 教育文化

教育県としての伝統は、もともと岡山県ぜんたいのほこりとしてきたところであるが、本町では、浄風館以来地域住民のあいだに好学の風があつく、邑久高等小学校・邑久土曜学校・邑久高等女学校が一学区に鼎立して、これを邑久学園とよんで親しみ、明治・大正・昭和3代をつうじて、子弟の教育大いにふるい、石原謙三・児島献吉郎・古武弥四郎・竹久夢二・正富汪洋・大原桂南・奥田真須二ら、おおくの人材をぞくぞくとだしている。また、町制発足以来、つねにこの伝統をはずかしめないように、「教育優先」「文化優先」を町政の重要施策の一つとしており、現在、とくに次の項目に重点をおいて、町の教育文化の水準向上をはかるとともに、明るく豊かで住みよい郷土づくりの一翼をになっている。

1. 道徳教育の徹底
2. 科学技術教育の推進
3. 教科教育の徹底と進路指導の合理化
4. 現職教育の充実と学校管理の適正
5. 教育施設設備の充実
6. 新生活運動の推進
7. 青少年教育の促進
8. 成人婦人教育の振興
9. 民主教育の推進
10. スポーツ活動の振興



邑久町の教育を語るためには邑久学園を忘れてはならない。かつての邑久高等小学校の教育は「邑久魂」、邑久土曜学校のモットー「自研奮闘」は、終戦後新教育の真髄として打ち出された「自発学習」の精神に違背しない。邑久中の生徒等が朝な夕なに仰ぎ見る本館正面の「今日の問題は、一解決の方法は」とりもなおさず、中学生の本分を遂行してゆく目あてに外ならない。

教 育 委 員 会 (旧委員)

職	氏 名	就任年月日	住 所
委員長	木 村 佐代治	27.10.6	本 庄
委員	今 田 力 治	〃	豊 原
〃	谷 祐 遵	〃	北 島
〃	家 野 富 太	〃	福 中
〃	小 倉 正 三	31.10.1	大 窪
〃	横 野 祐 仁	〃	北 島
〃	朝 倉 和 子	〃	山 田 庄
教育長	加 藤 博	27.10.6	北 島
〃	岡 本 一 可		

教 育 委 員 会

職	氏 名	就任年月日	住 所
委員長	三 浦 熊 男	昭33.10.1	庄 田
同職務代理	黒 井 浩 黙	34.10.1	虫 明
委員	中 島 一 十 次	35.10.1	本 庄
同	赤 枝 豊 子	36.10.1	山 田 庄
教育長	三 宅 東 男	35.10.1	下 笠 加

奥田真須二

明治15年、邑久町豊安に生れ、閑谷黌に学ぶ。邑久高等小学校、邑久土曜学校、邑久高等女学校長を歴任、名実共に邑久学園の長として実に30有7年、郷土子弟教育の道場として、郷党の信頼と尊敬を一身にあつゞその実績は天下に喧伝せられ、教え子8000人に及ぶ。傍ら邑久郡教育会長及青年団長として地方文化の開発に努め、更に文部省視學員を委嘱せられ県下青年学校経営指導に当る。昭和8年正六位に叙せられた。また愛国婦人会県

支部主事、大日本婦人会県支部理事及事務局長を歴任、昭和23年邑久村長昭和27年初代邑久町長、邑久郡町村会長、岡山県町村会副会長等に選ばれ地方自治行政に関与し8年に及ぶ。昭和11年同窓子弟相議って邑久中学校前に頌徳碑を建立、四時色を変えぬ碑庭の樹間から、邑久学園の将来を見守るかの如く聳立し、その余徳を慕う生徒等は朝な夕なに碑前の草をむしり、塵を払っている。



教育長 三宅東男

教員、児童生徒数の推移

学校別	31年		32年		33年		34年		35年	
	教員数	児童生徒数	教員数	児童生徒数	教員数	児童生徒数	教員数	児童生徒数	教員数	児童生徒数
小学校	80	2,493	80	2,472	78	2,524	77	2,311	79	2,147
中学校	31	1,333	35	1,013	38	1,148	37	1,119	39	1,178
高等学校	41	816	41	827	47	842	47	886	45	913
幼稚園	8	250	8	190	7	186	7	190	6	161
各種学校	4	79	3	64	3	75	3	85	3	56

(註) 当該年町域による。学校基本調査概数。一部推計。

学校総括

学校別	学校数	教員数	学級数	児童生徒数		
				総数	男	女
小学校	8	73	59	1,889	937	952
中学校	2	44	31	1,351	685	666
高等学校	1	43	21	904	376	528
幼稚園	5	6	6	181	92	89
各種学校	1	3	2	51	0	51

(註) 昭和36年学校基本調査による概数。分校を含む。

中学校卒業者の進学就職状況

年度別	卒業者数	進学者	就職者				家事
			総数	第一次産業	第二次産業	第三次産業	
昭和31年度	416	251	136	25	43	35	58
32	409	251	123	73	43	36	56
33	458	309	101	27	33	31	58
34	377	260	99	16	52	13	36
35	262	192	70	3	53	11	3



社会教育の現状

区分	組織の概要	活動の概要
公民館	邑久地区ほか8分館	成人式、公民館結婚、体育祭、文化祭、社会教育研究発表会、定期講座、幹部研修会、新生活運動等
婦人協議会	8地区 3,100名	幹部研修会、婦人大会、新生活運動、講習会、病院養老院慰問、青年と婦人の会、婦人学級、母親学級、社会教育へ協調等
青年団	8地区 420名	青年交歓活動、幹部研修会、研修旅行、講習会、キャンプスキー教室等
婦人学級	町中央学級、8地区、5部落	中央学級(リーダー養成)地区学級、部落学級(明るい人づくり、家づくり、山づくり)
青年学級	町中央学級、玉津、裳掛	中央学級、玉津、裳掛地区学級(一般教養・職業・家事等)
民主教育推進委員会	町官公庁、学校、各種団体、学識経験者	広義の民主教育研究、明るい部落づくりの方途研究と事業実施





欧風画絵馬

尻海の若宮八幡宮にある約1m×2mの大作。「寛政4年壬子年8月15日、当浦願主谷野屋仁左工門、平野屋甚兵衛、曉嶽国綱画」と銘記がある。170年前のもので、当時欧風画は秋田藩にさかんであったが、この絵馬が尻海の願主によって秋田から持ちかえって奉納されている事実は、この港のさかえていた歴史をしのばせる。

木造薬師如来坐像

北島の余慶寺に安置される、高さ1.53mの堂々たる一木造り。すぐれて慈悲と威厳にみちた面相、柔軟でボリュームのある体軀、まさに県下屈指の優秀作である。彫りの特長から弘仁末期・藤原初期（およそ1100年くらい前）の作と見られている。

色々おどし甲冑

北島の豊原北島神社にあり、佐々木三郎盛綱奉納のもと伝えられ、「集古十種」（江戸時代に出版された名器名物の解説書）にもせられたほどの名品である。南北朝（およそ600年あまり前）の作と推定される。



永正銘備前焼花瓶

本庄の静円寺所蔵。高さおよそ60cm、口径39cm、胴径36cm。銘文に「奉寄進横尾山永正九年六月日伊部木村三郎右工門」（450年前）とあり、銘のある備前焼では今のところ一ばん古い。形は中国古銅器のソソという器にならったもので、美しく整っている。当寺にはもう一点、ほぼ同形の永禄12年銘（400年前）のものもある。

神社・寺院・教会等

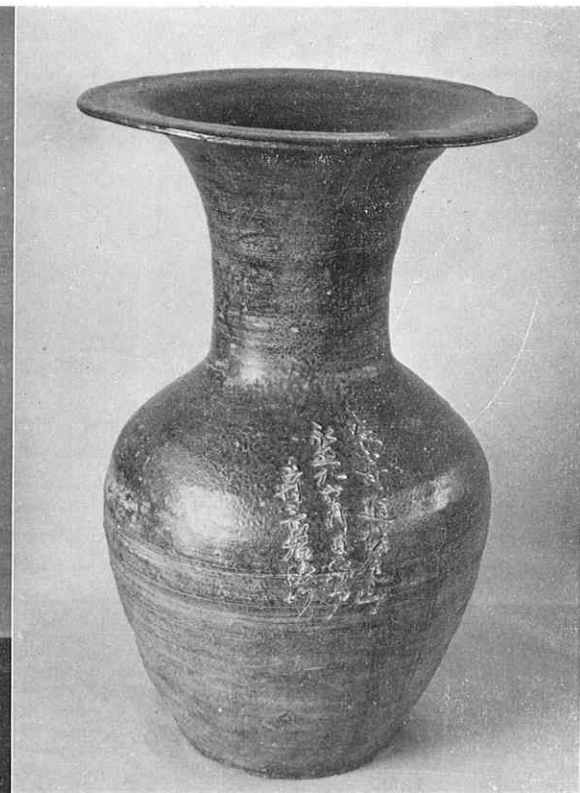
神社	寺院	教会	布教所	教団	その他
27	8	5	3	3	1

公民館・博物館・図書館・映画館

区分	公民館	考古館	映画館
昭和27年	9	1	1
昭和36年	9	1	0

重要文化財

区分	種別	物件名及び員数	所在地	所有者(管理者)	指定年月日
国指定	彫刻	木造薬師如来坐像	1 軀	上寺山余慶寺	同 寺 明34.8
〃	〃	木造聖観音立像	1 軀	同 寺	同 寺 大 6.8
〃	工芸	色々威甲冑	1 領	上寺北島神社	同神社 明34.8
県指定	〃	梵鐘	1 口	上寺山余慶寺	同 寺 昭26.12.24
〃	建造物	横尾山静円寺塔婆(多宝塔)	1 基	横尾山静円寺	同 寺 〃35.9.6
〃	絵画	若宮八幡宮欧風画絵馬	1 面	尻海 3.038	同神社 〃35.4.26
〃	建造物	余慶寺本堂	1 棟	北 島 本条院外	〃34.1.30
〃	工芸	備前焼牡丹餅大平鉢	1 個	箕 輪 太田巖	〃32.11.5
〃	〃	備前焼火燗鶴首徳利	1 個	〃 〃	〃34.3.27
〃	建造物	横尾山静円寺本堂	1 棟	本 庄 同 寺	〃31.4.1
〃	工芸	永正銘備前焼花瓶	1 個	横尾山静円寺	同 寺 〃31.4.1
〃	〃	永禄銘備前焼花瓶	1 個	〃 〃	〃 〃





邑久考古館

昭和11年1月24日、館長長瀬薫氏の創立にかかり、昨年が開館25周年にあたる。

藏品15万余点は長瀬館長の収集による考古資料で、主として邑久町を中心に、牛窓町・長船町・上道町・西大寺市等の貝塚・古墳等からの出土品である。無土器時代から鎌倉期にいたる石器・土器・鳥獣・魚貝の骨殻器・銅鉄器・硝子器・陶棺等が常設展覧され、郷土の学生、一般研究者はもちろん、中央・地方の学界からの来館者も多い。とくにアメリカ、ニューヨーク州コロンビア大学硝子博物館研究員ドロシー・ブレイヤー女史などは同館所蔵のガラス器を熱心に研究、女史の言によれば、世界硝子史上の重要資料であるという。

館長長瀬薫氏は、50年の歳月を発掘にあけくれ、私財をとうじ、努力をおしまず半生をこれらの収集と郷土古代文化の研究にさきげ、まれに見る識見と眼識をそなえながら、おごらずともとめず、文字どおり謙虚な民間研究者としてあまんじ、ゆうゆう精進されている人格者である。



館長 長瀬 薫



邑久考古館所蔵
水落発見の家形陶棺



製作中の喜之助とその作品



芸能・文芸

吉井川のすみわたった流れは、穀倉地帯千町平野の沃土をうるおし、ひろびろと豊かな地勢にめぐまれて、あたかも南風かおるギリシヤ・ローマの文化のみをりを思わせるように、わが郷土は古来、芸能文芸のさかんにもはやされた歴史をもっている。

19張の面じょうり(面芸)、各地区の盆踊りが知られていたし、上寺の業合大枝、豆田の松原美穂子らの歌人、尻海の柴田義重(一説に本庄とも)、大橋の武田五峰、尻海の中谷金鶴らの画家を生み、書では大原桂南らが日本の

声名をはせている。陶芸では滋味あふれる虫明焼の伝統があり、またNHKテレビの「宇宙船シリカ」などで知られる喜之助人形の作者竹田喜之助(本名岡本隆郎)や写真家緑川洋一も本町出身である。

一般町民の暮しの中にも、謡曲の松楓会、華道連盟、総合文芸の草笛、その他カメラ、合唱、短詩型文学などさかんなグループ活動があつて、美の探求にいそしんでいる。

虫明焼

備前国家老で風雅の人として知られた伊木三猿齋が天保年中(およそ130年前)この地に窯をひらき、茶道の余技として焼物を楽しんだのが虫明焼のはじまりである。

その頃京の名匠清風与平を招いて茶器をつくったが、明治初年には同じく京都から名工宮川香山(真葛)がこの窯に来て、安南・織部・乾山等の作品に擬し、呉須絵の作をつくり、雅致のある造型、独特のうわ薬、硬質の焼成で天下に虫明焼の名声をひろめた。香山の業をついだ森香州も茶器、花器に名品をのこしているが、現在は黒井一染がその伝統をうけついでおり、新風もおこりこんですぐれた作品をおくり出している。



香州作の虫明焼名品

8 社会福祉



国民ぜんたいが身心ともに健康で文化的な生活をいとむことのできる、明るい国家社会をつくるいわゆる社会福祉国家建設の線に沿って本町においても、戦争やその後の混乱期にわざわいされ、あるいは思わぬ災害で痛手をうけた人びとや、幼いもの、年老いた方がたに明るい暮しがもたらされるよう、福祉4法の問題にのっとり、まごころをもって各方面に努力をつづけている。

民生児童委員会

委員定員 49名 現在員 49名 (男41名 女8名)
 保護家庭および要保護家庭の更生指導はもとより、青少年の育成補導など市ひろい仕事を受もって活動している。

母子奉仕委員

定員 8名 (各地区1名)
 町内母子家庭のよい相談相手として、更生指導、母子福祉資金貸付相談など、日夜をわかつたず奉仕している。

青少年問題協議会

委員 22名 (町全般)
 次代をになう青少年が、社会不安におしひしがれてとかく非行に走りがちである全国的傾向の波に、本町がわかされてはならないので、補導はもとより、非行の原因を究めてその対策をたてるようにつとめ、なおすすんでは非行防止よりも非行をおかす青少年や環境をつくらぬ努力をつづけている。

保 育 所

昭和36年12月調

保育所名	定員	措置人員	職 員			
			園長	保母	給食婦	その他
邑久	100人	100人	1人	4人		2人
福田	60	60	1	2		1
今城	72	72	1	3		1
計	232	232	3	9		4

児童福祉法による町立保育所3カ所をもうけて、保育の手に欠ける家庭の幼児をあずかって養育している。

こども会の育成

結成数 58
 真に民主的自立的な青少年の健全な育成をはかる場としてのこども会をつくるため、会の中心となる指導者の研修会を毎年ひらいてきて、その成果は目にみえてあがっており、優良こども会の表彰もおこなって、奨励している。

老人クラブの育成

結成数 3
 老人はいわば邑久町を守りぬいてきて、次の世代へうけわたしてくれられた人びとであるから、老後のひとときをつどって、趣味や娯楽にまた懐旧談に、楽しいといの会をもってもらいたいものと結成をすすめている。



身体障害者の援護

さまざまな原因から身体の不自由になった方がたの更生をたすけ、また必要な保護をおこなって、誠実を期している。

障 害 名	視覚障害者	聴覚障害者	肢体障害者	計
人 数	27人	35人	82人	144人

愛生園光明園の障害者をのぞく 36年12月調



遺 族 援 護

軍人・軍属等で公務のため傷つきまたは死なれたかた、もしくはその遺族の方がたの暮しをまもり、申請事務をうけたまわっている。また、英霊よ安かれと毎年慰霊祭をおこなっている。

地区名	邑久	福田	今城	豊原	木庄	笠加	玉津	雲掛	計
英霊数	80	90	92	65	79	26	82	155	699

9 保健衛生



児童遊園地の設置

子どもたちを交通その他の災害からまもるだけでなく、積極的に遊びの中から協同の社会を体得できるような楽しい生活の場として、県や関係者の協力で、児童遊園地をつぎつぎとつくっている。

邑久上寺山楽々園

老令のため一人立ちの生活のおぼつかない方がたに入ってもらい、その生活をたすけるために、他町村にさきがけて昭和27年、眺めのよい上寺山にこれを設立した。入園希望もしいだいにふえるので、その後増築して、現在収容定員50名、職員は園長以下8名となっている。

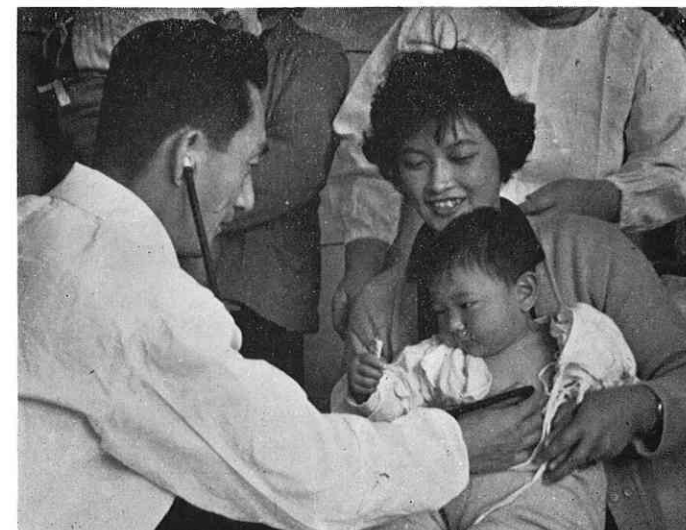
災害救助

あつてはならないことだが、災害は忘れた頃にやってくる。そうした場合すみやかに救助や罹災者の保護、秩序の維持などの手が遺憾なくとれるように、町災害対策本部規程をもうけ、常に人員配置をととのえている。



邑久町社会福祉協会

町内福祉関係諸団体の役員の中から委員を委嘱して運営している。郡社協、県社協その他福祉団体と協力して、おもに要援護家庭等の世帯更生指導と法外援護をおこなっている。



何よりもまず健康であることがその人の幸福の第一歩であり、また誰も一番望んでいることである。

社会連帯の責任で町民の健康を守りみんなの幸せを確保してゆくために、本町においても病気になった人々に対する治療施設と相俟って病気にかからないための色々の施策を重点的に講じている。

病気を治療する診療施設として邑久町立病院及び裳掛診療所をいち早く建設し、予防衛生の施策としては上水道施設、尿処理施設の拡充と各部落毎に環境衛生組合を結成して保健衛生活動の普及強化を図っている。

又町に保健婦を設置し各部落の愛育委員、衛生委員の協力のもとに一般衛生、母子衛生の向上に努めている。

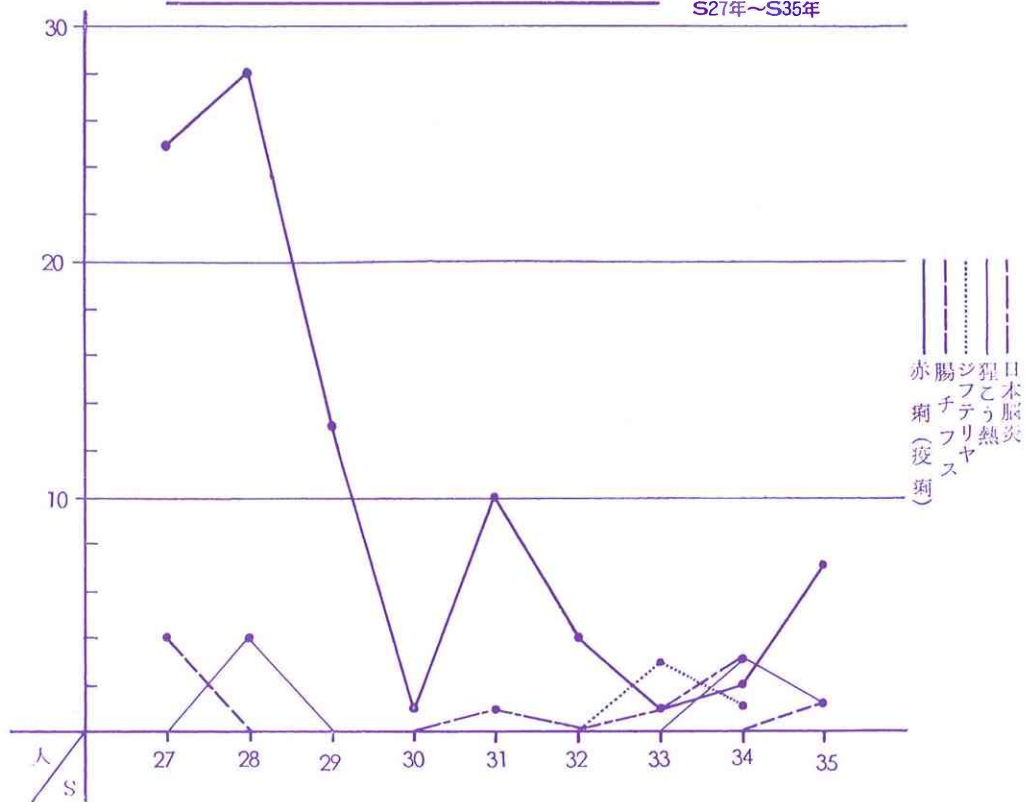
保健衛生思想の普及と各施策の推進によって本町民の健康状態は年々向上し死亡率は低下して病魔に災いされる不幸から漸次脱却しつつあることはこの上ない喜ばしいことである。しかしまだまだなすべき仕事は山ほどあってとくに急がれる施設として塵芥処理場及び火葬場の設置がある。今後こうした施設が完備されて真に文化度の高い明るい健康的な町づくりをしたいものである。

乳児一斉検診(春、秋期)状況

年次	昭和29年	30年	31年	32年	33年	34年	35年	36年
受診率	76.3	71.9	73.4	75.2	77.2	83.4	83.1	87.9

年次別法定伝染病発生状況

S27年～S35年



邑久町立病院

病床数 一般 33床
 診療科目 内科 外科 産婦人科
 耳鼻咽喉科
 職員数 医師 5名 薬剤師
 1名 技術者 2名
 看護婦 14名 事務員
 2名 その他 7名

合併前, 昭和20年9月10日, 当地方をおそった大風水害と, 翌21年1・2月の大震災によって, 各村の伝染病舎は流失, あるいは荒廃して使用不能となり, 早急に復活して町民が安心して入院できる文化的な組合

立伝染病院がほしいこと, もう一つにはこの地域には完備した医療施設がないため, もし重患発生の場合とはおく岡山市に行かなければならない状態であり, さらにまた医療保障の中核である国民健康保険の実施による町民の福祉を念願して, 直営診療施設もあわせ建設することになり, 各関係村長と議会議員協議の結果, 昭和25年邑久村他5ヵ村立診療所ならびに伝染病舎建設組合を結成, ただちに同組合によって建設の方途をたて, 27年3月1日起工, 同年7月15日竣工, 9月1日より開院, 農村における一大医療機関として脚光をあびている。30年第2病棟 (13床), および給食施設を増築, 今日におよんでいる。

敷地 4736.6m² (1,431.8坪)

建物 1465.2m² (442.9坪)

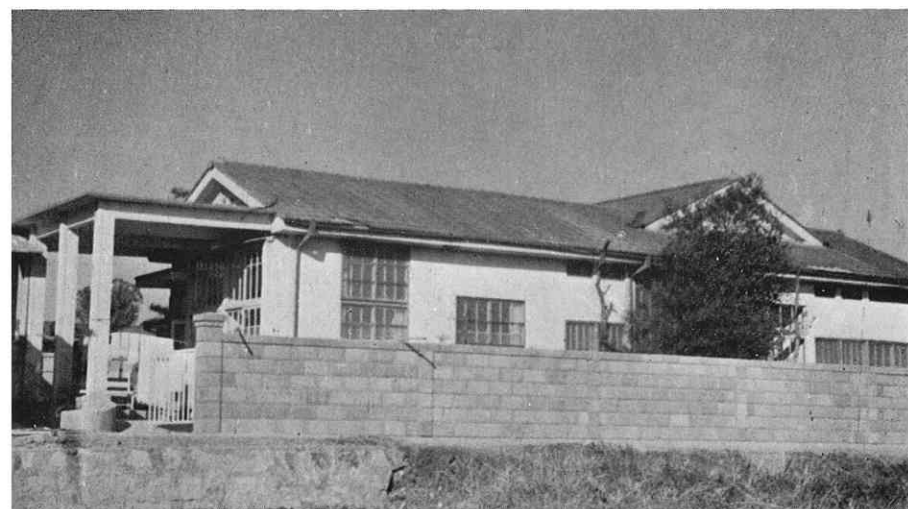
内訳 本館 575.3m² (173.9坪)

床棟 388.1m² (117.3坪)

給食施設 108.5m² (32.8坪)

医師住宅・看護婦宿舎3棟 232.9m² (70.4坪)

ガレージ・その他 157.1m² (47.5坪)

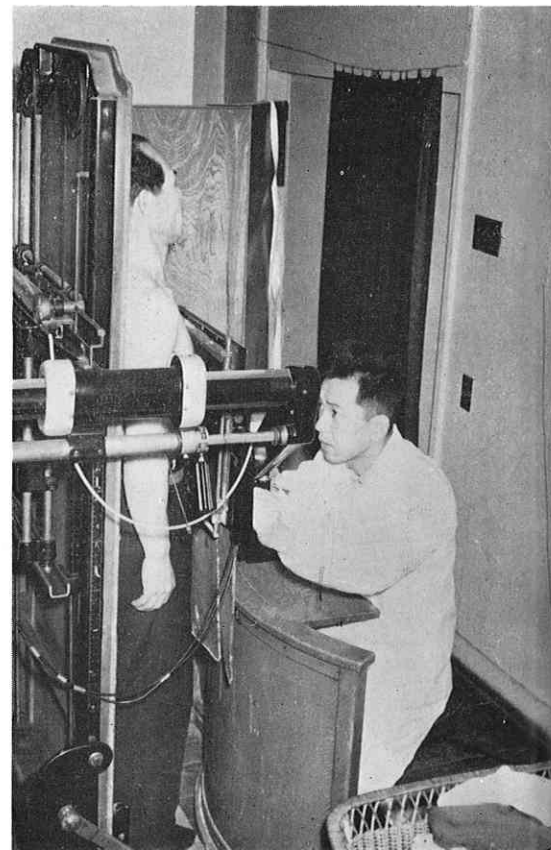
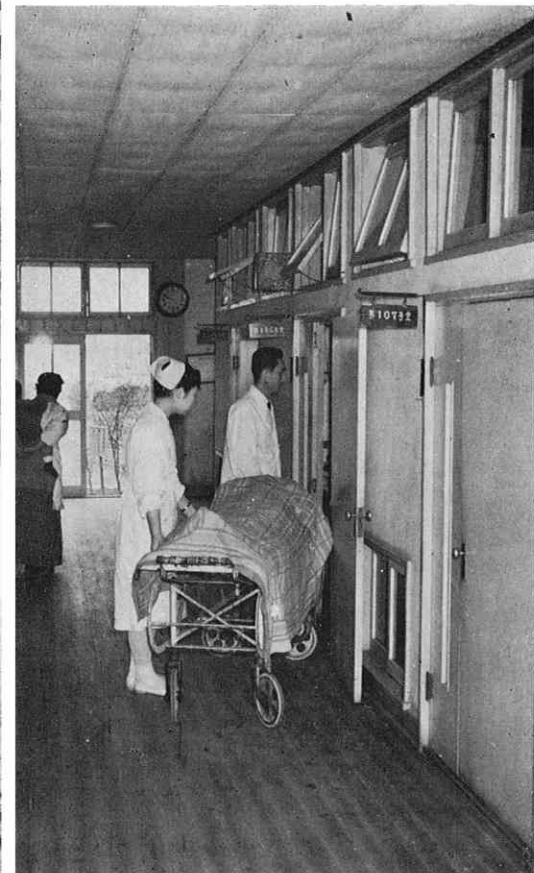


隔離病舎



年度別診療状況

年度別	区分	自国保診療分			他国保及び一般診療分			計		
		件数	日数	費用額 円	件数	日数	費用額 円	件数	日数	費用額 円
29	入院	527	3,522	2,347,646	593	5,187	3,569,802	1,120	8,709	5,917,448
	外来	5,280	16,944	2,916,078	3,848	11,172	2,178,288	9,128	28,116	5,094,366
	計	5,807	20,466	5,263,724	4,441	16,359	5,748,090	10,248	36,825	11,011,814
30	入院	582	4,736	3,229,336	858	6,276	4,101,221	1,440	11,012	7,330,557
	外来	5,500	15,570	2,816,700	4,343	9,869	2,017,674	9,843	25,439	4,834,374
	計	6,082	20,306	6,046,036	5,201	16,145	6,118,895	11,283	36,451	12,164,931
31	入院	550	4,572	3,030,994	1,485	8,791	5,725,081	2,035	13,363	8,756,075
	外来	5,666	16,636	3,037,288	5,767	12,350	2,397,044	11,433	28,986	5,434,332
	計	6,216	21,208	6,068,282	7,252	21,141	8,122,125	13,468	42,349	14,190,407
32	入院	624	5,397	3,689,034	1,181	8,669	5,474,114	1,805	14,066	9,163,148
	外来	5,800	17,523	3,497,454	6,128	14,740	2,839,971	11,928	32,263	6,337,427
	計	6,424	22,920	7,186,488	7,309	23,409	8,314,085	13,733	46,329	15,500,573
33	入院	521	5,113	3,745,785	909	7,297	5,628,090	1,430	12,410	9,373,875
	外来	5,747	15,822	3,107,742	6,619	14,472	3,104,837	12,366	30,294	6,212,579
	計	6,268	20,935	6,853,527	7,528	21,769	8,732,927	13,796	42,704	15,586,454
34	入院	499	3,781	2,962,065	941	7,676	5,571,290	1,440	11,457	8,533,355
	外来	6,997	19,174	4,453,025	7,543	18,164	4,317,909	14,540	37,338	8,770,934
	計	7,496	22,955	7,415,090	8,484	25,840	9,889,199	15,980	48,795	17,304,289
35	入院	459	3,366	2,655,383	844	5,502	4,457,527	1,303	8,868	7,112,910
	外来	6,870	18,409	4,505,983	8,094	20,048	4,756,259	14,964	38,457	9,262,242
	計	7,329	21,775	7,161,366	8,938	25,550	9,213,786	16,267	47,325	16,375,152



裳掛診療所

旧裳掛村には国立療養所として長島愛生園、邑久光明園の施設のみで一般の診療施設がなかつたため、他町村の診療施設に依存していたので、住民は非常に不便を感じ、診療所建設は急務とされていたもので、昭和8年5月20日同診療所の設立により住民の福祉増進に大きい役割をはたして来たのである。

その後昭和13年国民健康保険法制定により同地区も国民健康保険事業を開始し、この直営診療施設になった。

昭和33年4月邑久町合併により同町へひきつがれて今日にいたる。

- 完 成 昭和8年5月1日
- 診療開始 昭和8年5月20日
- 病床数 4床
- 診療科目 全科
- 職員数 医師1名 看護婦1名 事務吏員1名
- 建 物 本館483m² (146坪)



裳掛診療所

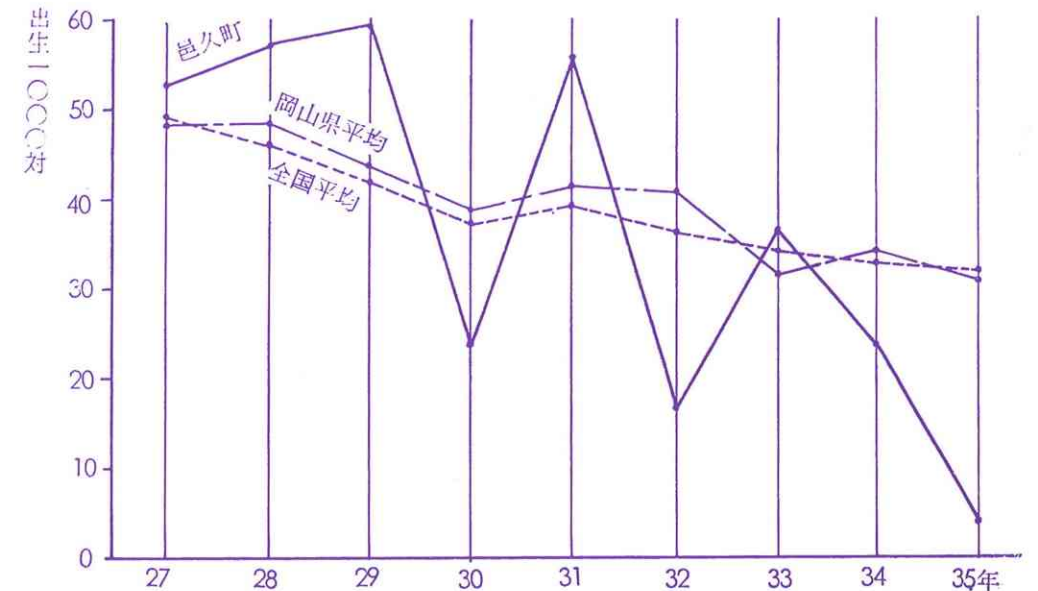
年度別診療状況 (外来)

区分 年度別	自 国 保 診 療 分			他 国 保 及 び 一 般 診 療 分			計		
	件 数	日 数	費 用 額	件 数	日 数	費 用 額	件 数	日 数	費 用 額
33	2,680	8,610	1,282,346 ^円	1,802	5,061	759,340 ^円	4,482	13,671	2,041,686 ^円
34	2,182	6,186	1,254,251	1,313	4,096	775,326	3,495	10,282	2,029,577
35	2,107	5,923	1,208,336	1,338	4,491	956,536	3,445	10,414	2,164,872

過去5カ年に於ける年齢階級別死亡状況

年 令 階 級 年 度 別	総 数	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80
		}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}
昭和31	227	18	1		3	4	6	6	2	8	9	9	14	9	22	35	36	45
32	230	6			1		5	5	3	5	4	9	14	16	21	20	30	91
33	183	13	1		1	3	2	2	4	8	7	7	9	14	21	24	26	41
34	218	10	1	1	2	5	2	1	1	8	6	8	14	15	25	31	35	53
35	200	5		1	1		4	4	3	5	6	7	13	23	23	27	28	50

乳児死亡率年次推移



乳児死亡率の高低はその地区の衛生状況のパロメーターと云われているが、邑久町に於ては、県平均、全国平均よりも最近は低位を保ち、尚漸減している

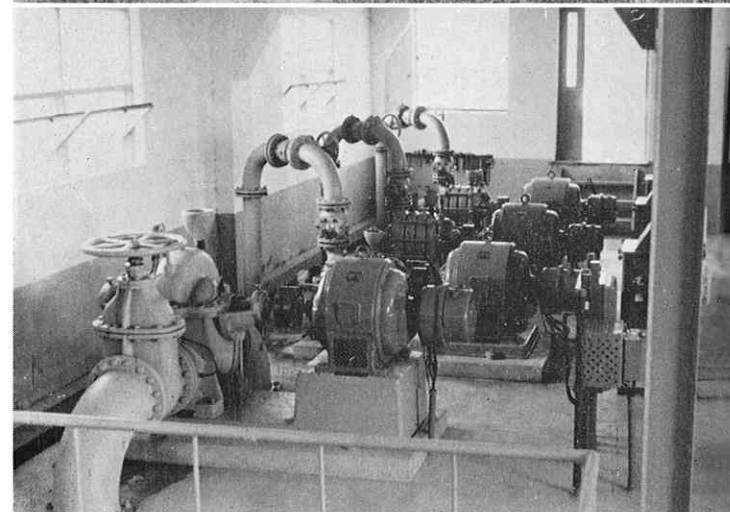
上水道

環境衛生思想の浸透により町内各部落特に婦人層より、上水道設置を望む声がほうはいとして起きてきたので、町内一円に給水出来る上水道を布設する方針をたて、運営の合理化の立場から邑久町と牛窓町の共同事業として、昭和33年2月邑久牛窓上水道組合を設置し、日本エタニットパイプ株式会社の手によって34年2月着工、35年12月全施設の完成をみたものである。その事業は実に2億4千万円、この地方としては画期的な大事業がここに実現され、町民の文化的生活向上と福利増進に大きな成果をもたらしている。

さいわいにして給水の普及状況ははじめ計画されたとおり50%を上まわり、しだいに上昇をたどっているが、上水道事業はいわゆる公営企業であって、あくまで独立採算制を立てまゑとして経営が成り立たなければならない。したがって今後給水戸数の普及をはかり殆んど大部分の家庭が給水を受けて上水道事業の経営も確立し、あわせて町民全体が衛生的で合理的な文化生活を送られるよう望んでやまない。



邑久町立病院



事業内容のあらまし

給水区域

邑久町および牛窓町全域（ただし高地、簡水道区域をのぞく）

給水戸数および給水人口

邑久町（一般）	1,280戸	6,400人
（長島）		3,500人
牛窓町	1,240戸	6,200人

給水普及率

邑久町 56%
牛窓町 56%

給水量

1日平均 2,400m³
1日最大 3,600m³

配水管総延長 94,000m

道水管総延長 1,330m

（簡易水道については公衆衛生の項に）

国民健康保険

本町の国民健康保険事業は、同法の施行された昭和13年、旧福田村において組合が結成された時から始まっている。つづいて旧村ごとに認可され、その運営体制をととのえて保険事業の普及徹底をすすめてきた。その後戦時下では事業をつづけるのに多くの困難にであった。ことに終戦後の混乱期には、ひどい状態になって一部のぞく外は休止したが、国力の回復にともない、23年10月社会保障制度の確立によって国保事業の公営制がさだめられ、運営の強化策が確立されるにおよんで、27年4月6カ村合併による町制実施とともに、これまでの体制を再編統合して、ここに邑久町国民健康保険の発足をみたのである。以後玉津村・裳掛村も合併し、保険事業もそのまま吸収して現在まで順調な経過をたどっている。ただこの事業をとりまく社会事情、大きくは社会保障の現状はまだ完全とはいいがたく、したがってこの事業の運営は財政面のみならず前途に多くの難関をもっている。またこの事業直営の邑久町立病院および裳掛診療所も、その運営がしだいにむずかしくなり、根本的に再検討を要する問題である。

国保世帯数及び加入者数

加入者数		除外者 (健保.共済.生活保護該当者)	加入者の全人員 に対する割合
世帯数	被保険者数		
2,845	12,459	8,344	59.9

資料は厚生課

病類別給付状況

病 類	件 数	費 用 額	病 類	件 数	費 用 額
伝染病及び寄生虫病	1,757	3,311,620 ^円	泌尿器系の疾患	1,030	1,246,772 ^円
新 生 物	287	1,598,072	人口流産, 正常分娩 褥合併症	678	977,260
アレルギー, 栄養等の疾患	807	671,838	皮 膚 疾 患	2,315	1,261,061
血液及び増血器の疾患	142	189,050	骨・運動器の疾患	1,188	1,066,385
精 神 病	210	1,020,535	先天奇形新生児	63	106,422
神経及び感覚器の疾患	3,218	2,652,323	老衰及び病名不明	238	116,372
循環器系の疾患	1,881	2,323,541	事 故 暴 力	1,431	799,462
呼吸器系の疾患	5,742	2,859,987			
消化器系の疾患	3,830	4,025,445	総 数	24,817	24,226,145

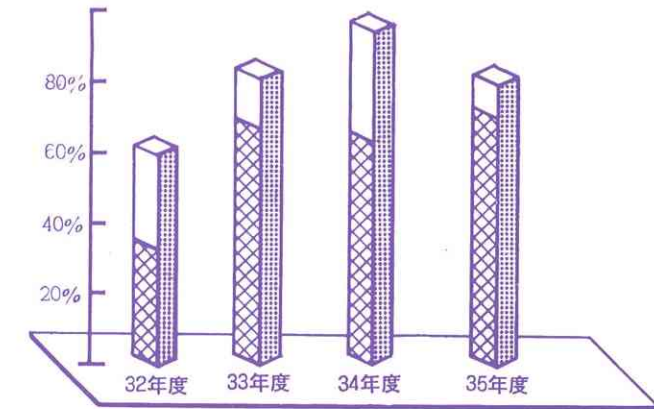
療養給付状況

年 度	被保険者数	件 数	日 数	費 用 額	1件当日数	1件当 費用額	1人当 費用額	受診率	備 考
27	10,806 ^人	16,762	66,766	10,359,422 ^円	4.0	618 ^円	959 ^円	155.1 [%]	
28	10,153	20,633	78,128	13,470,313	3.8	653	1,327	203.2	
29	11,854	23,931	87,793	17,168,326	3.7	717	1,431	199.6	玉津合併
30	11,904	25,271	88,127	17,353,857	3.5	687	1,459	212.3	
31	11,709	25,968	89,315	18,156,894	3.4	699	1,549	221.6	
32	11,512	27,016	90,916	20,009,600	3.4	741	1,738	234.5	
33	13,387	26,680	92,208	23,164,996	3.5	866	1,730	199.3	裳掛合併
34	13,197	30,319	100,452	27,783,817	3.3	916	2,101	229.4	
35	12,694	30,613	101,395	28,556,696	3.3	933	2,244	240.5	



防疫作業

結核健康診断実施
状況



各種予防接種実施状況

種 別	対 象 人 員	接 種 完 了 人 員			計
		一 期	二 期	三 期	
腸チフス, パラチフス	6,439	263	5,092		5,355
ジフテリヤ, 百日咳	1,138	437	231	396	1,054
種 痘	915	197	230	396	823
小 児 マ ヒ	449	447	—	—	447
日 本 脳 炎	5,542	5,470	—	—	5,470
流 行 性 感 冒	1,731	1,612	—	—	1,612



10 町民生活



有線放送

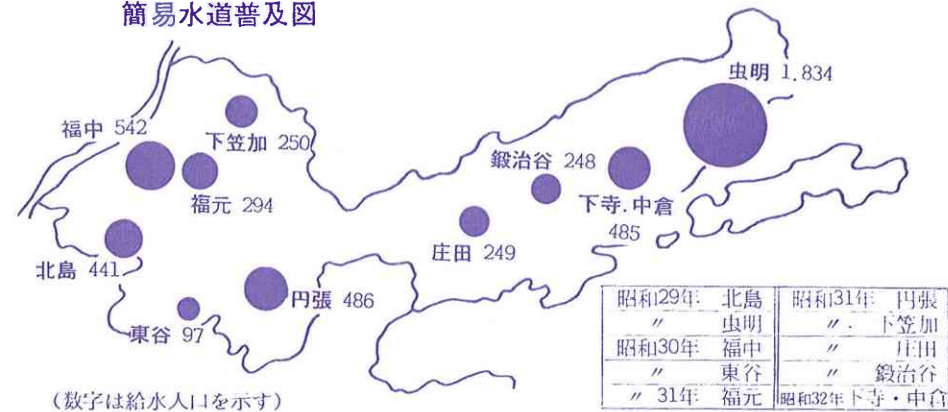


戦時中の統制経済と耐乏生活、終戦後の物資難、インフレの昂進による経済不安等大きく変動してきた日本経済も漸く安定期に入りつつあった昭和27年に本町の合併が行われ、町民福祉の向上を旨として、町の行政を中心にみんなで協力一致してきたが、合併当時と10年後の現在の町民生活の実態を比べると、全く隔世の感がある。そして今後もますます生活環境の変化と生活水準の向上が行われてゆくことであろう。

簡易水道一覽

認可年月日	名称	給水区域内の総人口	現在の給水人口
27. 3. 10	虫明簡易水道	2,501	1,834
29. 3. 10	北島 //	465	441
30. 2. 23	福中 //	632	542
30. 11. 14	東谷 //	125	97
31. 3. 31	鍛冶谷 //	248	248
//	下笠加 //	366	250
31. 12. 15	円張 //	486	486
//	福元 //	303	294
31. 12. 15	庄田 //	262	249
33. 12. 13	中倉下寺 //	443	485

簡易水道普及図

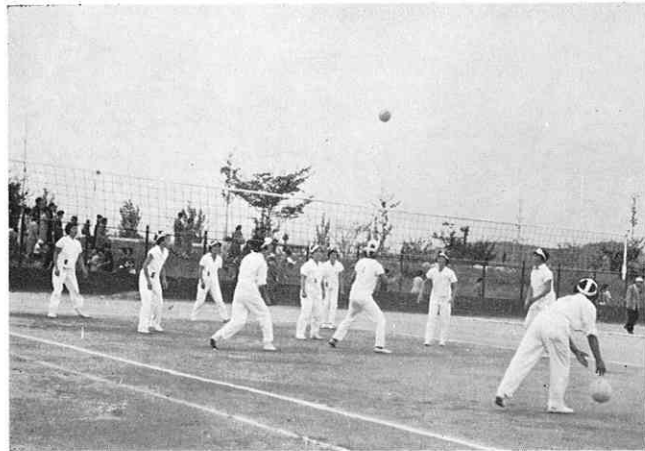


むかしは井戸今は水道



むかしの住いと今の住い

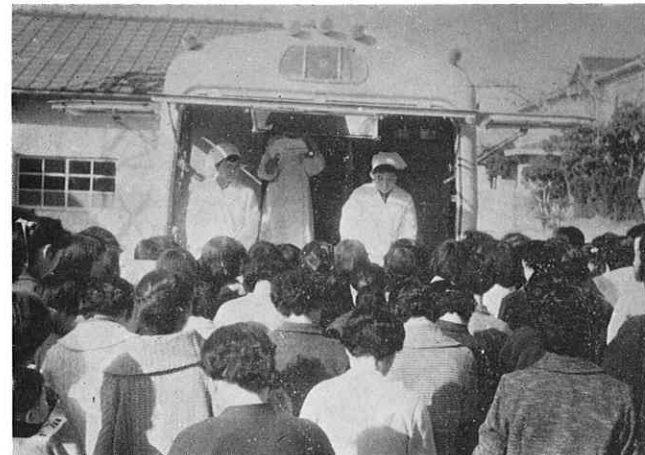




レジャーはバレーボールで



町民運動会



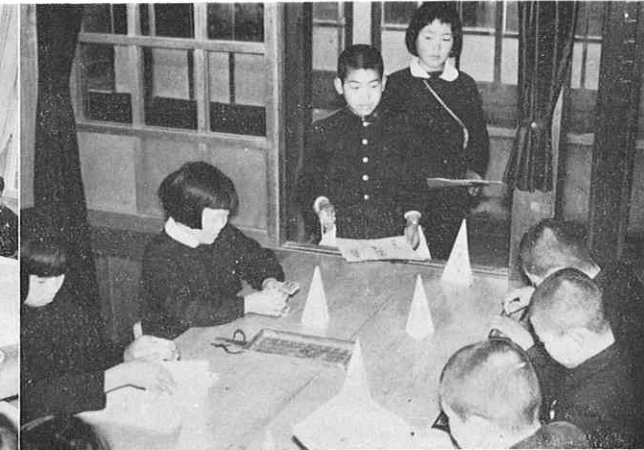
キッチン・カーで栄養の学習



テレビをかこむだらん



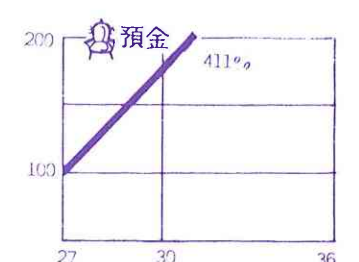
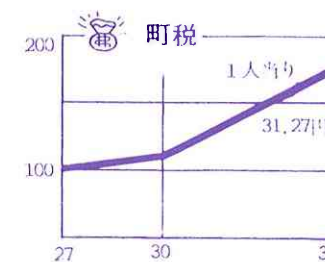
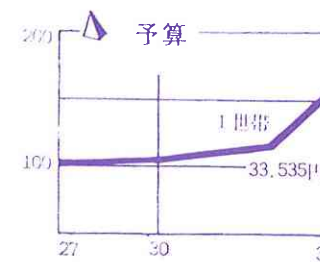
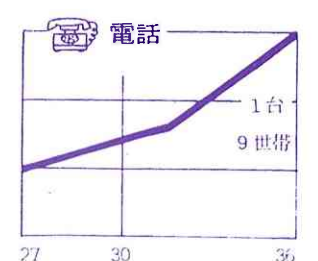
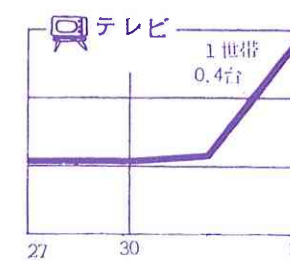
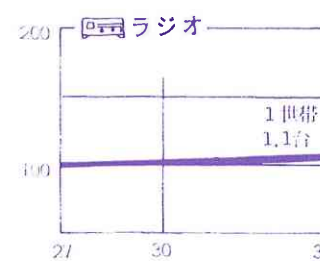
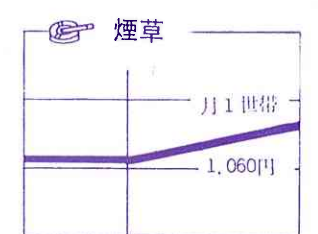
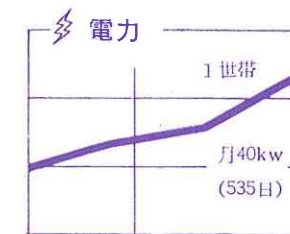
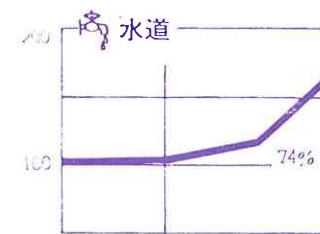
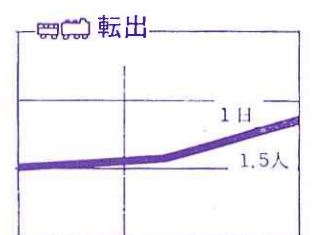
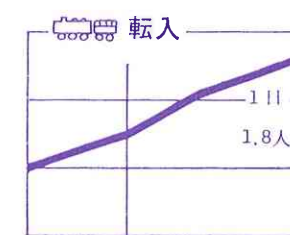
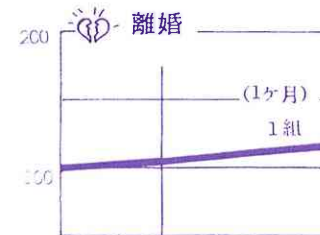
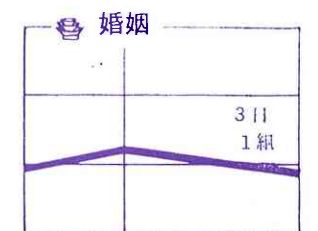
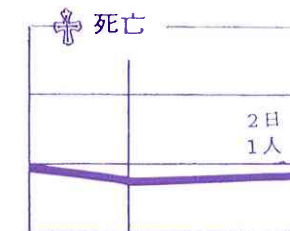
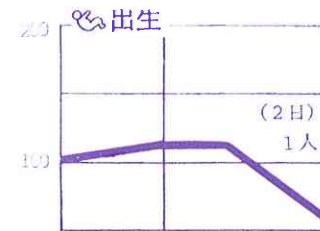
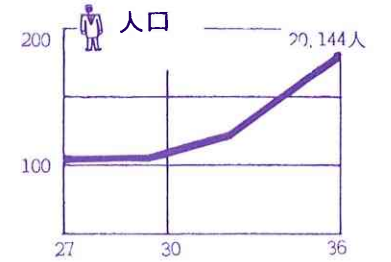
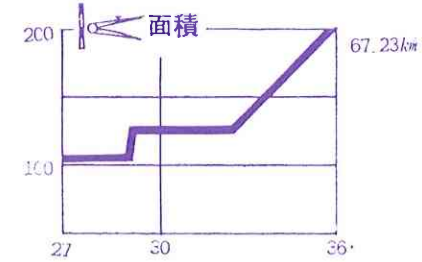
新生活は公民館結婚から



子ども銀行も大繁昌

向上する 町民生活

昭和27年
// 30年 } 比較
// 36年



町民所得

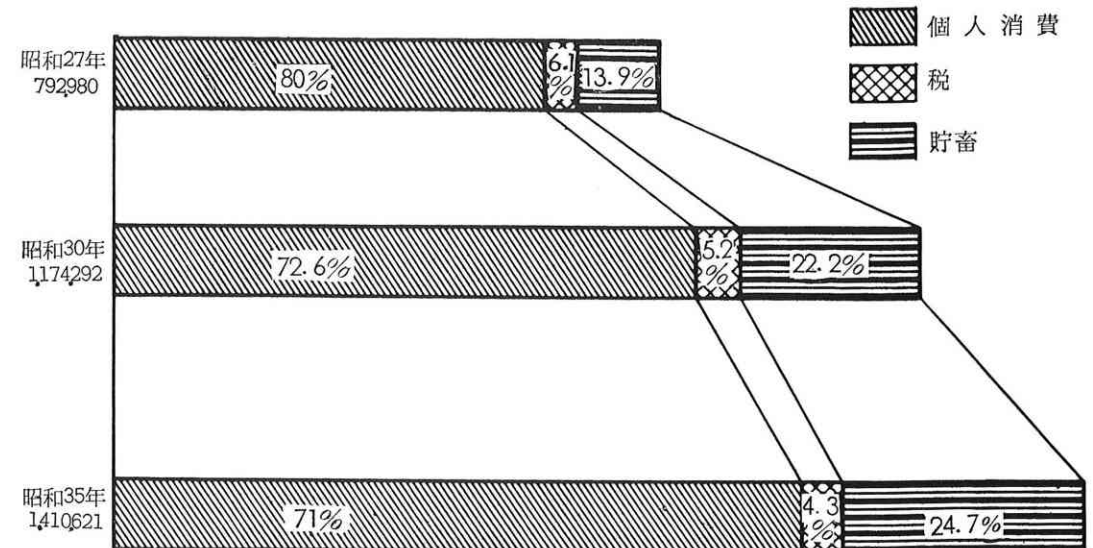
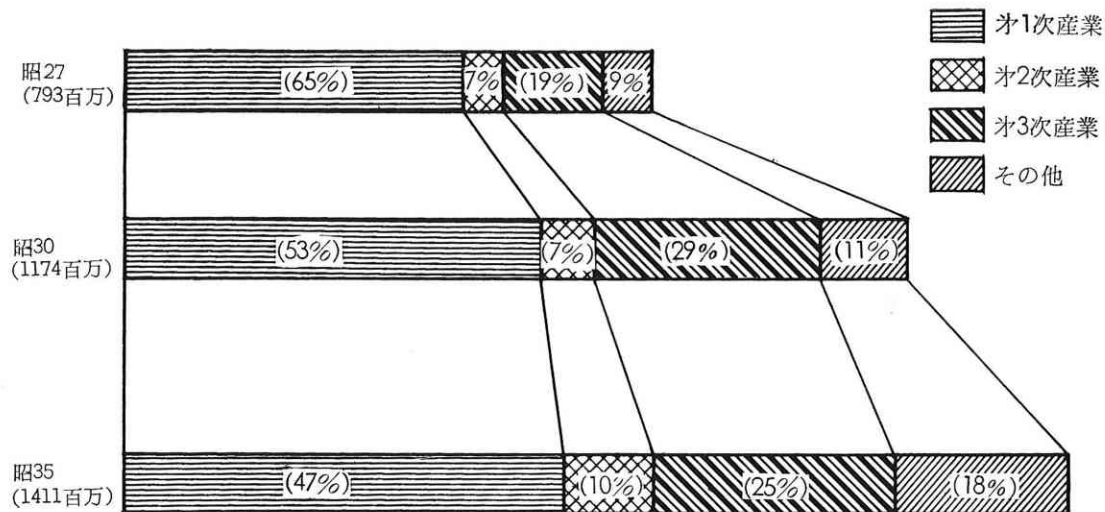
生産所得推計 (単位千円)

種別	昭和27年		昭和30年			昭和35年	
	所得額	就業者一人 当り所得額	所得額	就業者一人当り所得額		所得額	就業者一人 当り所得額
				町	県民平均		
総額	792,980	89	1,174,292	123	148	1,410,621	144
第一次産業	512,291	79	623,865	101	86	666,600	108
農業	471,920	77	572,703	99	81	613,520	107
林業	14,271	237	19,227	310	281	19,820	264
漁業	26,100	81	31,935	102	87	33,260	113
第二次産業	52,721	129	87,589	164	214	144,066	173
鉱業	1,910	106	1,920	160	191	3,610	225
建設業	18,450	127	38,038	167	189	60,017	170
製造工業	32,361	132	47,631	162	220	80,439	174
第三次産業	151,568	101	339,178	189	211	355,051	202
卸, 小売業	33,450	55	71,090	113	184	78,845	130
金融, 保険, 不動産業	22,010	423	37,070	669	543	50,953	536
運輸, 通信, 公営企業	14,251	175	23,127	251	266	20,970	246
電気, ガス, 水道業	1,512	137	2,245	172		4,129	187
サービス業	72,419	106	188,704	207	192	178,741	215
公務	7,926	121	16,942	172	188	21,413	183
町外よりの所得	76,400	166	123,660	228		244,904	232

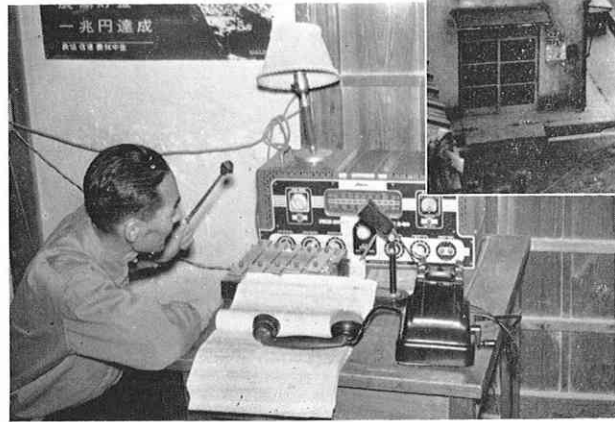
町民支出

町民個人支出推計

種別	昭和27年		昭和30年		昭和35年	
	実額	構成比	実額	構成比	実額	構成比
1. 総額(町民所得処分)	792,980	100.0	1,174,292	100.0	1,410,621	100.0
2. 個人消費支出	634,384	80.0	852,536	72.6	1,001,541	71.0
(1) 飲食費	308,311	38.9	400,434	34.1	403,438	28.6
(2) 被服費	76,126	9.6	95,118	8.1	107,207	7.6
(3) 光熱費	36,160	4.6	45,797	3.9	53,604	3.8
(4) 住居費	26,644	3.3	81,026	6.9	155,168	11.0
(5) 雑費	187,143	23.6	230,161	19.6	282,124	20.0
3. 個人税・税外負担	48,372	6.1	61,063	5.2	60,140	4.3
4. 個人貯蓄	110,224	13.9	260,693	22.2	348,940	24.7
5. 個人可処分所得(1-3)	744,608	93.9	1,113,229	94.8	1,350,481	95.7
エンゲル系数	27年 48.6%		30年 47.0%		35年 40.3%	



⑪ 交通通信



バス利用状況 (町内を通過する両備バス)

路線名	運転区間	路線延長 km	乗客数		一日運転回数
			1年間延人員	一日平均	
牛窓北廻線	牛窓 岡山	30	550,054	1,494	13
〃	〃 西大寺	18.5	26,755	72	1.5
虫明線	虫明 岡山	34.5	246,413	669	5
〃	〃 西大寺	23	106,153	288	5
敷井線	敷井 西大寺	19	70,015	190	4
鶴海南線	鶴海 岡山	32.5	135,355	367	3
鶴海北線	鶴海 西大寺	20	109,115	296	5
鶴海南線	鶴海 西大寺	21	47,034	127	2
万富線	万富 西大寺	22	73,302	199	4
芦田橋線	芦田橋 岡山	28.5	51,879	141	1.5

本町は合併以来、時代の要請に応じて、漸次県道、主要町道の整備、改良に努めてきたが、経済の発展、時代の進歩にともなう急激な交通量の増大にマッチした道路整備はまだ相当遅れている。経済文化の発展の基盤は先ず道路交通網の整備にあることは言をまたない。特に広域産業都市圏すなわち百万都市建設の構想圏内に入って将来の産業、経済の大発展が期待されている現在一層痛切に道路網の整備の緊要を感じるのである。国鉄赤穂線による鉄道輸送と国道二号線のバイパス路線の邑久町内通過及び東西、南北に走る県道の路面舗装化の実施による自動車輸送により、都市と農村を結ぶ輸送力の強化及びスピードアップは確保出来ると思われるので今後一日も早くこの実現を期したい。

又国鉄赤穂線邑久駅を中心とする都市計画も早期に実施して、時代の進歩に遅れないよう努めねばならない。



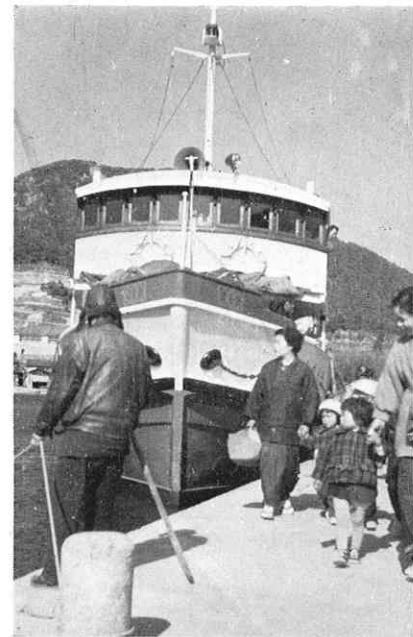
陸上交通

道路、橋梁延長

県道	町道	町道市員別内訳			木橋	永久橋
		1.5~2.5	2.5~4.6	4.6.以上		
68.4Km	879.775m	808.162m	70.429m	1.184m	175	238

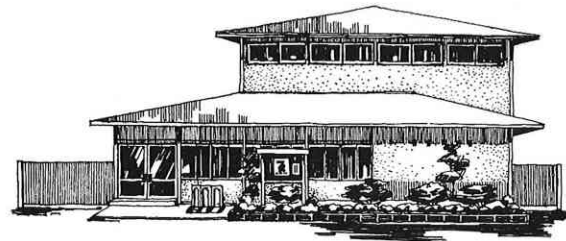
諸車台数

年次	普通自動車			特殊自動車	軽自動車	原動機付自転車
	乗用	貨物	三輪			
昭和36年	16	35	77	—	303	1,110



通信連絡

本町の通信施設については、現在、邑久、玉津、虫明の3交換局があって、町内間の電話通信にかなり不便を感じているので、町内間は即時通話ができるよう通信網の拡充強化を関係当局に要望している。又町役場と部落との連絡については本町合併以来無電話部落の解消を目指して、毎年2～3部落づつ町費をもって公設電話を設置してきた。現在その数は26カ所に達し、殆んど町内各部落と通信連絡がとれる態勢になっている。



邑久郵便局完成図

通信機関数

郵便局			電話局	
集配局	無集配局	簡易局	電話委託局	電話局
3	1	1	3	—

管内郵便物の引受と配達状況

年次	通 受		常 達		小 受		包 達	
	引	件	配	件	引	件	配	件
邑 久	27年	199,918	575,648	1,787	4,485			
	31	266,554	587,635	2,129	7,200			
	35	398,825	840,697	2,398	11,394			
虫 明	27	210,420	273,847	2,137	7,101			
	31	316,740	425,872	3,396	10,003			
	35	260,265	421,179	4,145	10,609			
玉 津	27	92,678	163,348	621	1,825			
	31	104,622	191,645	887	2,349			
	35	131,819	212,210	1,186	3,309			
計	27	503,016	1,012,843	4,545	13,411			
	31	687,916	1,205,152	6,412	19,552			
	35	790,909	1,474,086	7,729	25,312			

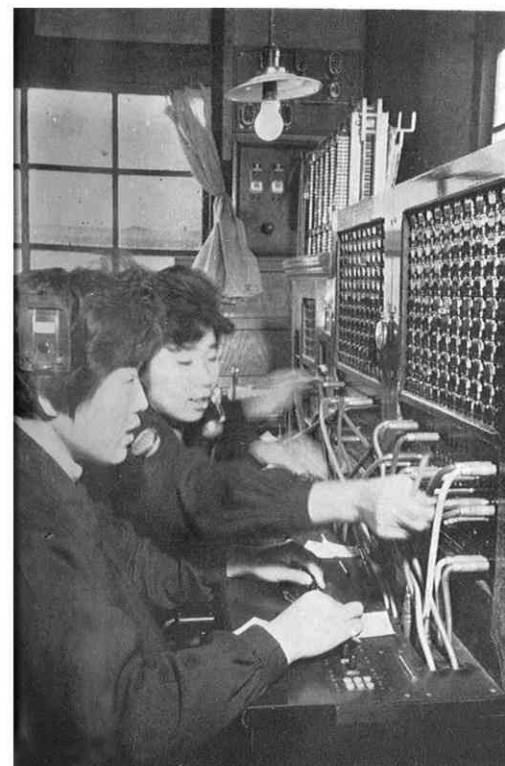
電信の受発信および電話加入件数の推移

年 次	電 信		電 話 加 入 件 数			
	発 信	受 信	総 数	営 業 用	住 宅 用	
昭 和 2 7 年	邑 久	3,133	5,893	80	79	1
	虫 明	2,391	2,853	44	43	1
	玉 津	780	1,109	30	30	—
昭 和 3 1 年	邑 久	2,463	4,456	103	102	1
	虫 明	2,512	3,200	49	48	1
	玉 津	633	1,533	34	34	—
昭 和 3 5 年	邑 久	2,583	4,819	173	172	1
	虫 明	3,648	6,210	79	78	1
	玉 津	1,181	1,255	76	74	2
計	2 7 年	6,304	9,855	154	152	2
	3 1 年	5,607	9,189	186	184	2
	3 5 年	7,412	12,284	328	324	4

局別管内電話加入件数

局 別	総 数	営 業 用	住 宅 用	管 内 地 域
邑 久	173	172	1	邑久、福田、笠加、豊原の各地区及び本庄、今城の各一部
虫 明	79	78	1	袋掛地区一円
玉 津	76	74	2	玉津地区一円
計	328	324	4	

(昭和36年12月現在)



12 消 防

合併と同時に従来の6カ村消防団を統合して町一本の消防団に再編し、その後団員の消防訓練に努めるとともに、機動力の強化による消火能力の向上を図ることを重点目標として、町民の物質的、精神的協力を求め消防器具の整備拡充を行ってきた。そして現在では県下でも有数の機動力を持つ消防団に成長した。なおその後玉津村、袋掛村の合併により消防団の組織はさらに強化され、消火、水防活動はもとより、警察との協力により警備体制の根幹となって町民の自然的、人為的災害防止にあたっている。しかし、ここ2、3年来の産業構造の急激な変化にともない消防団の中核をなす団員の確保がむづかしく、現状のままで放置できなくなったので、この際、思いきって根本的に機構改革を行い近代的な消防団に再編成して、より能率的な、訓練の行きとどいた消防活動の出来る体制を確立するべく、37年4月1日から実施の予定である。



水 防

本町の水防体制は消防団即水防団として、毎年台風時や大雨のある時は、西部は吉井川、その他の河川の氾らん備え、東部は津浪、高潮の来襲にそなえて、団員の訓練をおこない有事の際は直ちに警備態勢に入り災害防止に万全の処置を講じている。

消 防 装 備 の 推 移

36.12.1現在

年 次	消 防 装 備						部 数	団 員 数
	総 数	四輪自動車	三輪自動車	手 引	可 搬	消火栓		
2 7	2			2			36	600
2 8	4		1	2	1		36	600
2 9	3,△2	1.	△2	1	1		40	680
3 0	4			2	2		40	680
3 1	4,△1		2,△1	1	1		40	680
3 2	△3		△3				40	680
3 3	2,△1		△1		2		43	980
3 4	3		1.		2		43	700
3 5	△1		△1			121	43	700
3 6	1				1		43	700
計	23△8	1	4,△8	8	10	121		

△印は三輪車に積載

13 観 光



曙の美観で知られた虫明の瀬戸



鐘の上寺余慶寺全景 文化財の宝庫



夢二ゆかりの静円寺全景 国老伊木氏菩提寺

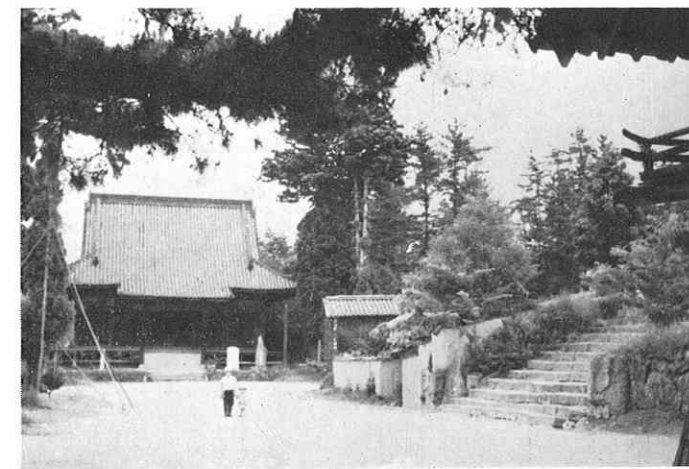


桜ほろ散る峨城山の眺望



善男善女の尊信篤い黒井山寺

変化に富みスチール雄大な大平山の眺望



春は御輿くり出す大ケ島寺

付 録

国立療養所長島愛生園

長島愛生園は日本最初の国立らい療養所として、昭和5年11月開園した。患者収容定員は400人で、はじめて患者を収容したのは昭和6年3月27日光田園長とともに多磨全生病院から転園して来た85名であった。爾来30年間にわたって定員の増加、設備の拡張、治療の充実など、らい患者福祉のため努力がつけられている。

職員数 園長以下 284名

国立療養所邑久光明園

明治42年大阪府神崎町12に開所した。昭和9年の室戸台風により全施設が壊滅流失したので、再建の地を長島に求め、昭和13年4月、名も光明園とあらためて落成式をあげた。16年7月国立に移管され邑久光明園と改称、戦後は患者の福祉施設もつぎつぎにもうけられ、文化的療園として特異の存在となっている。

職員数、園長以下 156名



愛生園全景

愛生園収容患者数

病型別	男	女	計
班紋らい	17	10	27
神絛らい	265	224	489
結節らい	806	380	1,186
計	1,088	614	1,702

光明園収容患者数

病型別	男	女	計
班紋らい	14	8	22
神絛らい	135	108	243
結節らい	478	217	695
計	627	333	960

おわりに

町制施行10周年を記念して「邑久町10年のあゆみ」を発刊することになりました。

私たちが歩んできた10年間のありのままの姿を、写真や図表によってなるべく理解しやすく平易に輯録するように努めました。本書が町の全貌を知ろうとするひとびとに少しでも役立てば幸いと存じます。

なお、本書の編輯について異常な熱意をもって御協力、御指導をいただいた県社会教育課の山本遺太郎先生及び広報課の西崎技師をはじめ、いろいろの貴重な資料を提供して下さった関係の方々に衷心より感謝申し上げる次第でございます。

昭和37年4月

総務課長 木下友次

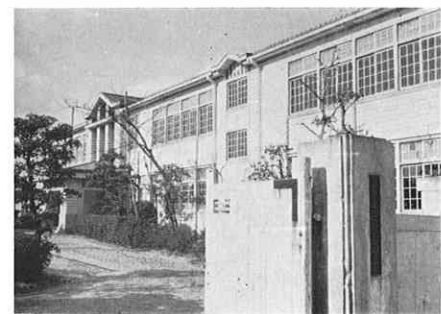
昭和37年4月

編集 岡山県邑久郡邑久町役場総務課

発行 岡山県邑久郡邑久町役場

印刷 協同精版印刷株式会社

題字 古武弥四郎氏



岡山県立邑久高等学校



邑久農業改良普及所



農林省統計事務所邑久出張所



岡山法務局邑久出張所

